

第1部 主体的に学ぶ子どものイメージについて語り合おう (GW)

主体的に学ぶ子どものイメージから、キーワードを共有します

第2部 「主体的に学習に取り組む態度」についておさらい

GWで挙がったキーワードをもとに、今さら聞けない「主体的に学習に取り組む態度」について、捉え直します。

第3部 新たに整理された「学びに向かう力・人間性等」の4つの要素についてフカボリ

新たに整理された「学びに向かう力・人間性等」の4つの要素について理解を深めていきます。

読み取る

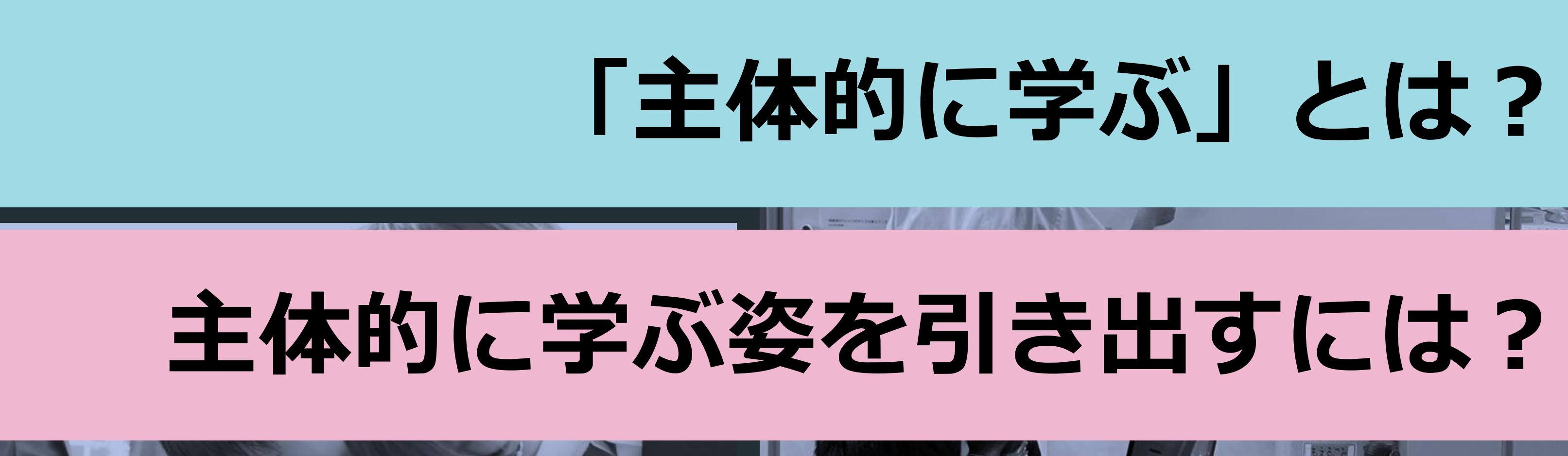


お手持ちの
スマホやタブレットで
読み取ってください

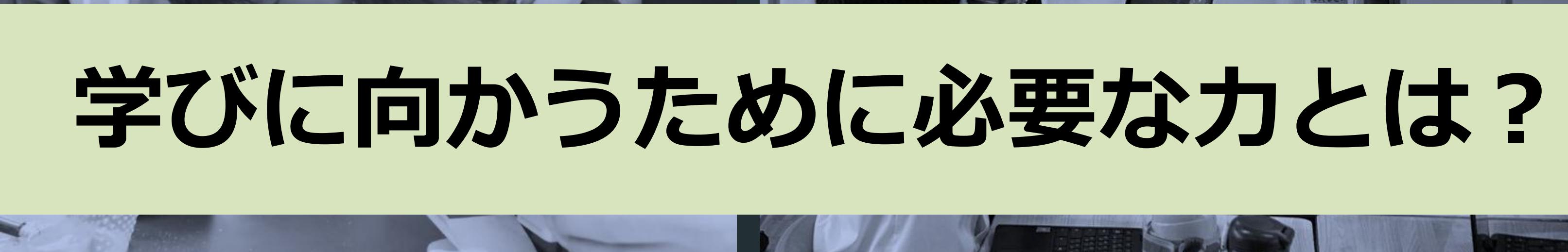


主体的に学ぶ

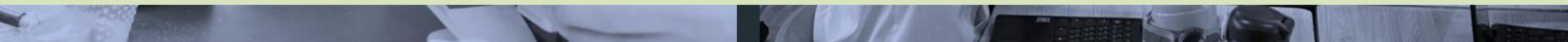
「主体的に学ぶ」とは？



主体的に学ぶ姿を引き出すには？



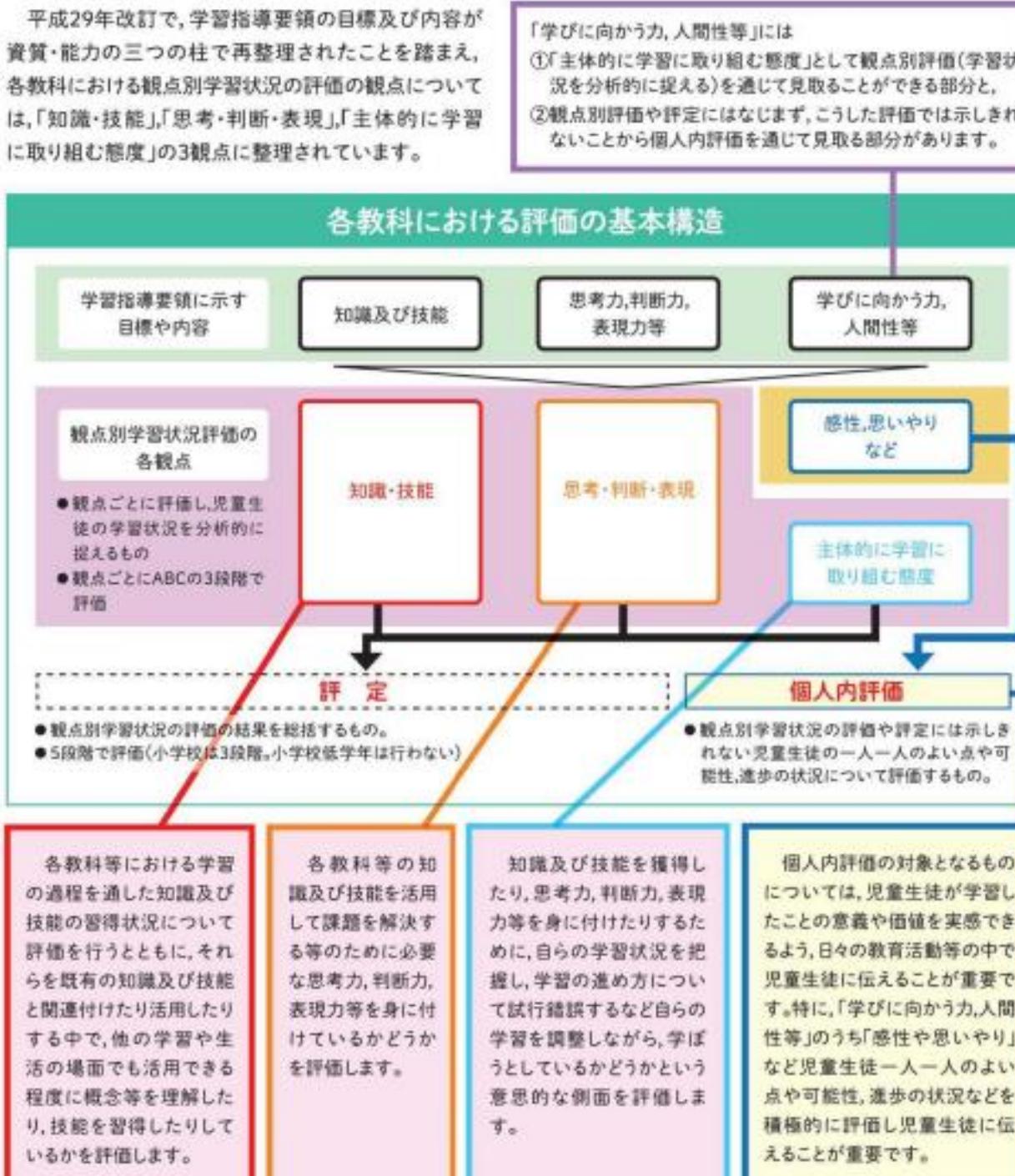
学びに向かうために必要な力とは？



◆ここでおさらい 主体的に学習に取り組む態度の評価

学習評価の基本構造

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。



詳しくは、平成31年1月21日文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」をご覧ください。

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1412933.htm)

特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の評価について

特別の教科 道徳、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動についても、学習指導要領で示したそれぞれの目標や特質に応じ、適切に評価します。なお、道徳科の評価は、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があります。

特別の教科 道徳（道徳科）

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては、観点別評価は妥当ではありません。授業において児童生徒に考えさせることを明確にして、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考え方を深める」という学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ります。

外国語活動（小学校のみ）

評価の観点については、学習指導要領に示す「第1目標」を踏まえ、右の表を参考に設定することとしています。この3つの観点に則して児童の学習状況を見取ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">●外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。●日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。●外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	<ul style="list-style-type: none">●身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考え方や気持ちなどを伝え合っている。	<ul style="list-style-type: none">●外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

総合的な学習の時間

評価の観点については、学習指導要領に示す「第1目標」を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて、右の表を参考に定めることとしています。この3つの観点に則して児童生徒の学習状況を見取ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">●探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	<ul style="list-style-type: none">●実社会や実生活の中から問い合わせだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ表現している。	<ul style="list-style-type: none">●探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

特別活動

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定めることとしています。その際、学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば以下のように、具体的に観点を示すことが考えられます。

内容	観点	学年	1	2	3	4	5	6
			○	○	○	○	○	○
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能							
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○	○		○		
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○			
学校行事			○	○	○			

各学校で定めた観点を記入した上で、内容ごとに、十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入します。
○印をつけた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に箇署に記述することで、評価の根拠を記録に残すことができます。

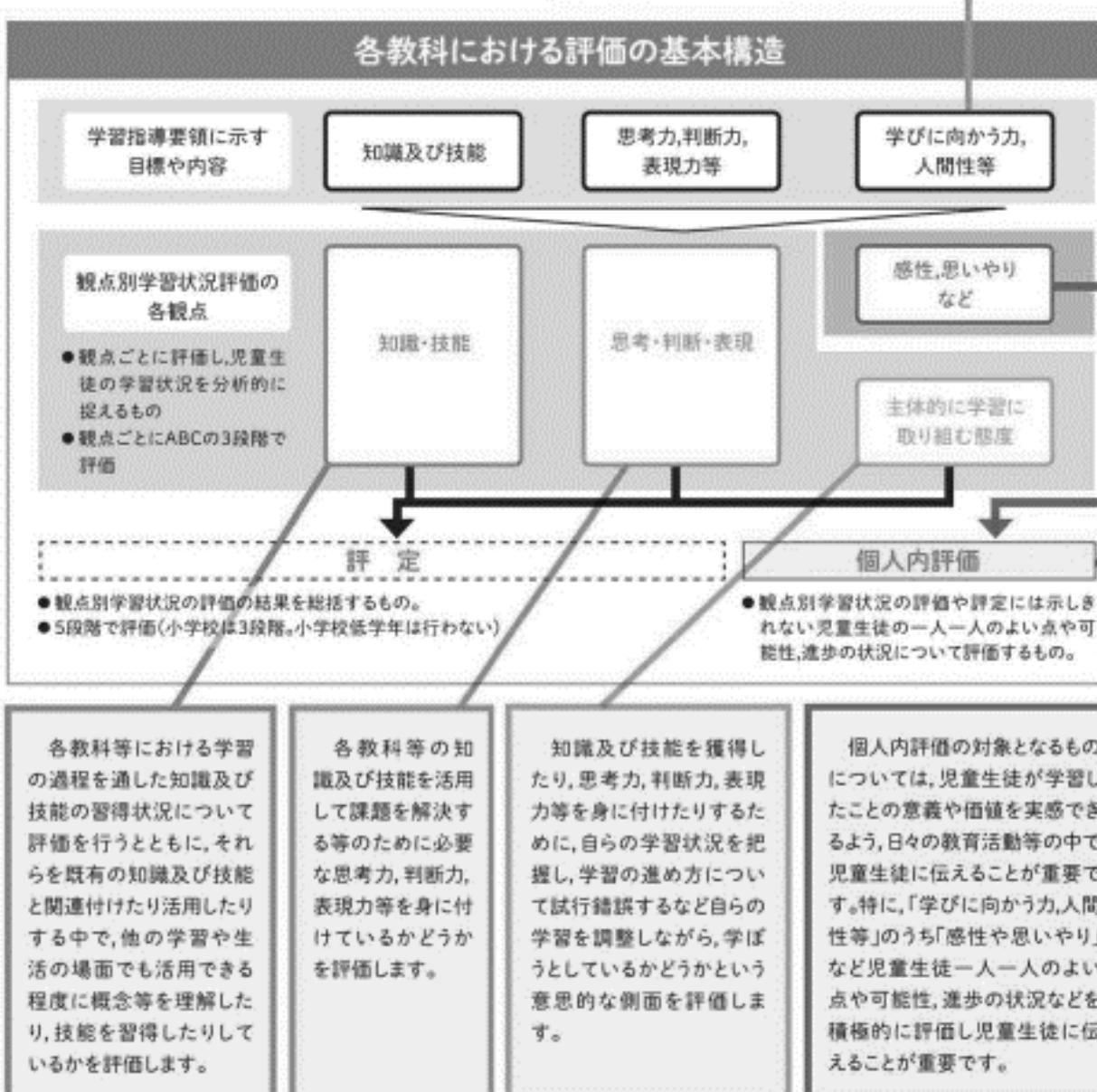
小学校児童指導要領（参考様式）様式2の記入例（5年生の例）

なお、特別活動は学級担任以外の教師が指導する活動が多いことから、評価体制を確立し、共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価するとともに、確実に資質・能力が育成されるよう指導の改善に生かすことが求められます。

◆ここでおさらい 主体的に学習に取り組む態度の評価

学習評価の基本構造

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。



詳しくは、平成31年1月21日文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」をご覧ください。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1412933.htm)

特別の教科 道徳、外国語活動 総合的な学習の時間及び特別活動の評価について

「学びに向かう力、人間性等」には
①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

特別の教科 道徳(道徳)
児童生徒の人格そのものに働きかけることを明確に自己の(人間としての)生き方について生徒が学習の見通しを立てたり学習

外国語活動(小学校の外国語)
評価の観点については、学習指導要領に示す「第1目標」を踏まえ、右の表を参考に設定することとしています。この3つの観点に則して児童の学習状況を見取ります。

「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

● 外国語の音韻や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
● 他の言語の表現を理解する。
● 他の言語の表現を表現する。
● 他の言語の表現を表現する。

総合的な学習の時間

評価の観点については、学習指導要領に示す「第1目標」を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて、右の表を参考に定めることとしています。この3つの観点に則して児童生徒の学習状況を見取ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身につけ、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問い合わせをいだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

特別活動

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定めることとしています。その際、学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば以下のように、具体的に観点を示すことが考えられます。

内容	観点	学年	1	2	3	4	5	6
			○	○	○	○	○	○
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能							
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○	○		○		
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○			
学校行事			○	○	○			

小学校児童指導要領(参考様式)様式2の記入例(5年生の例)

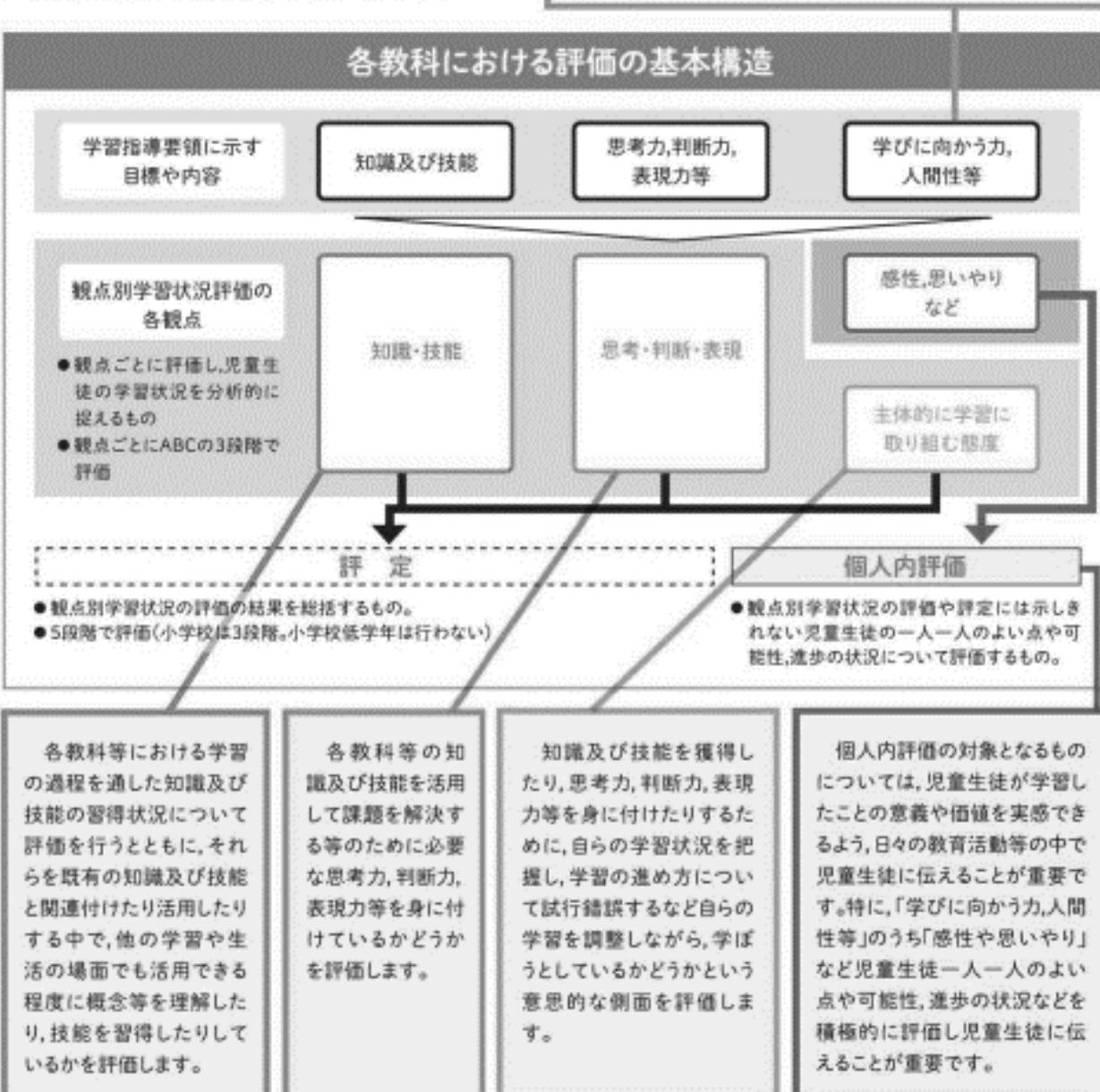
なお、特別活動は学級担任以外の教師が指導する活動が多いことから、評価体制を確立し、共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価するとともに、確実に資質・能力が育成されるよう指導の改善に生かすことが求められます。

各学校で定めた観点を記入した上で、内容ごとに、十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入します。
○印をつけた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することで、評価の根拠を記録に残すことができます。

◆ここでおさらい 主体的に学習に取り組む態度の評価

学習評価の基本構造

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。



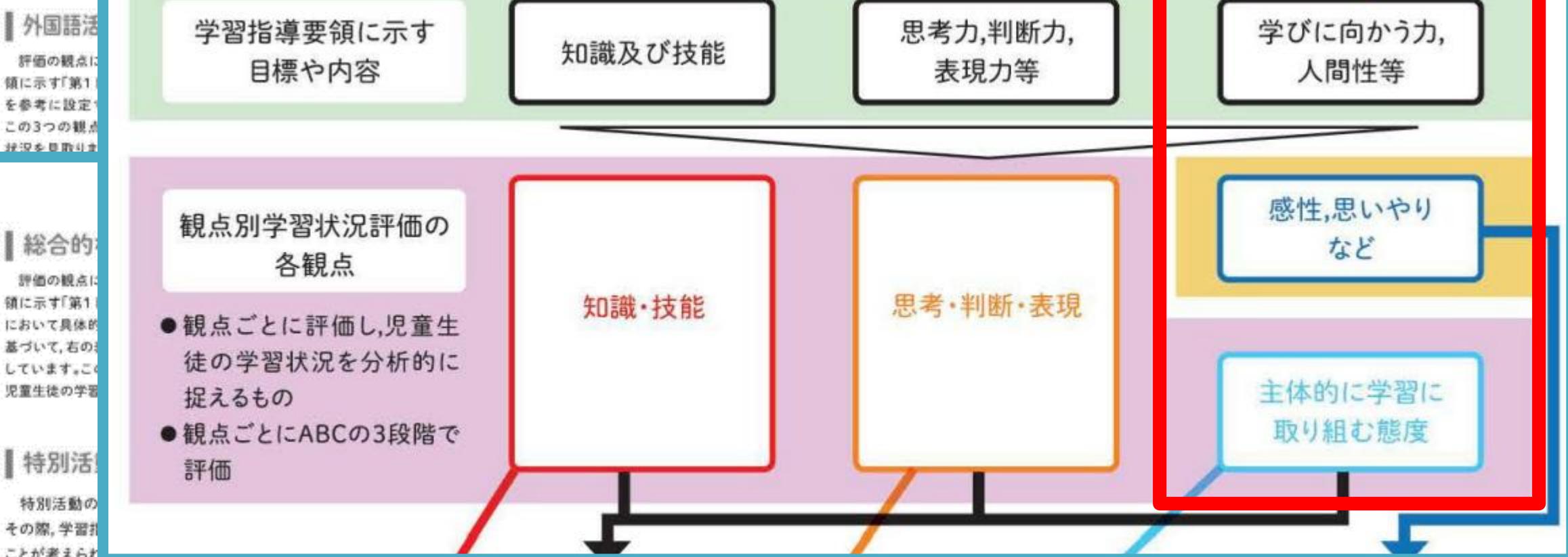
詳しくは、平成31年1月21日文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」をご覧ください。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1412933.htm)

特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の評価について

特別の教科 道徳、外国語活動(小学校のみ)、総合的な学習の時間、特別活動についても、学習指導要領で示したそれぞれの目標や特質に応じ、適切に評価します。なお、道徳科の評価は、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があります。

特別の教科 道徳(道徳科)

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては、観点別評価は妥当ではありません。授業において児童生徒に考えさせることを明確にして、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考え方を深めよう」という学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で児童生徒が学習の見



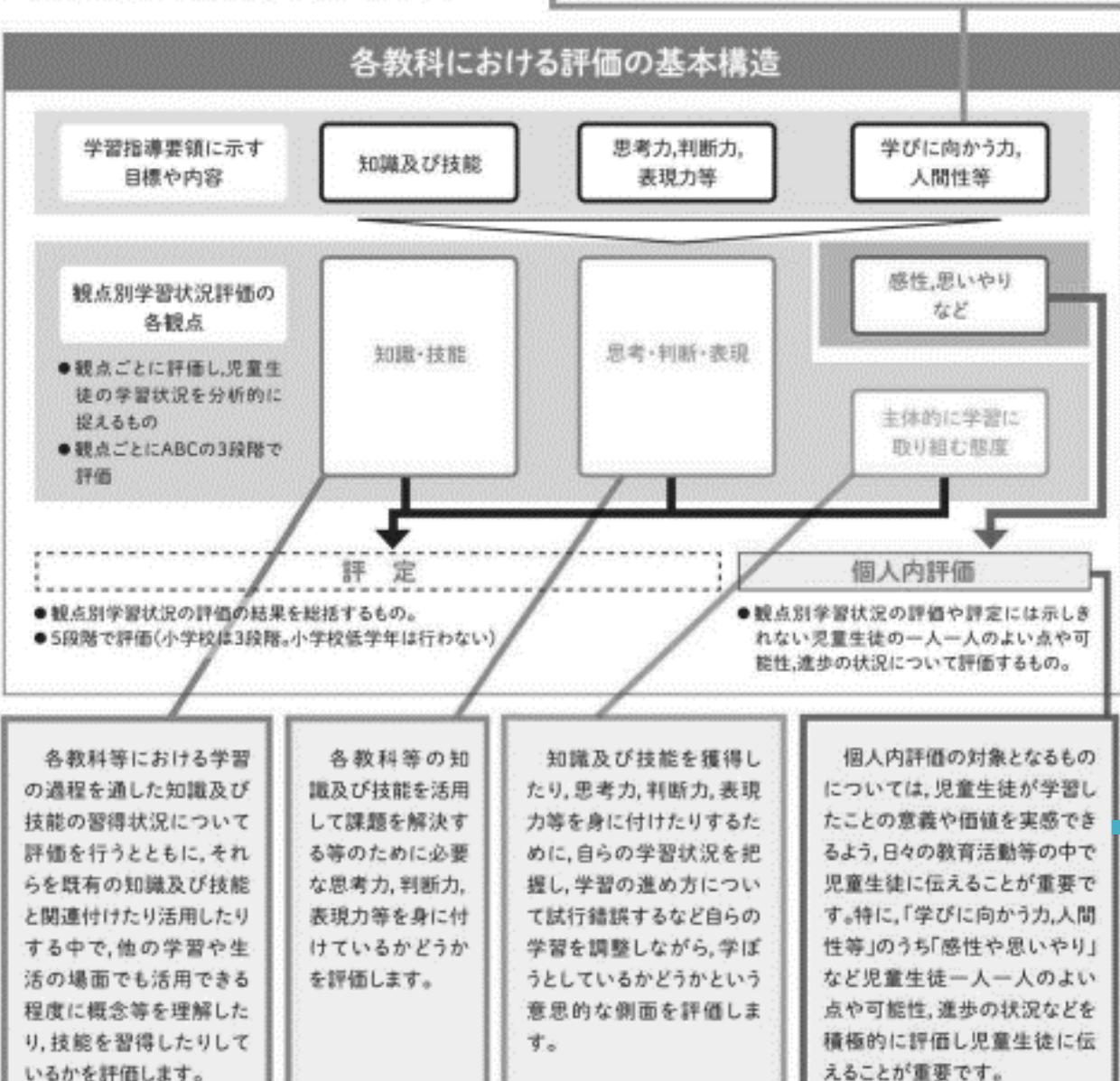
小学校児童指導要領(参考様式)様式2の記入例(5年生の例)

なお、特別活動は学級担任以外の教師が指導する活動が多いことから、評価体制を確立し、共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価するとともに、確実に資質・能力が育成されるよう指導の改善に生かすことが求められます。

◆ここでおさらい 主体的に学習に取り組む態度の評価

学習評価の基本構造

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。



詳しくは、平成31年1月21日文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」をご覧ください。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1412933.htm)

特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の評価について

特別の教科 道徳、外国語活動(小学校のみ)、総合的な学習の時間、特別活動についても、学習指導要領で示したそれぞれの目標や特質に応じ、適切に評価します。なお、道徳科の評価は、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があります。

特別の教科 道徳(道徳科)

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては、観点別評価は妥当ではありません。授業において児童生徒に考えさせることを明確にして、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める」という学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を通じて設定しつつ、学習活動全体を通して見取ります。

外国語活動(小学校のみ)

評価の観点については、学習指導要領に示す「第1目標」を踏まえ、右の表を参考に設定することとしています。この3つの観点に則して児童生徒の学習状況を見取ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
●外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考え方や感性、進歩の状況について評価する。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手の立場

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

特別活動

特別活動の特質と学校の立場、子育指導等立場によるもの

内容	観点
学級活動	よりよい知識・技能の発達
児童会活動	よりよい思考・判断力の発達
クラブ活動	よりよい表現力の発達
学校行事	よりよい人間性の育成

小学校児童指導の立場によるもの
なお、特別活動は学級担任による評価をもとに、児童の立場によるもの

個人内評価の対象となるものについては、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要です。特に、「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要です。

粘り強さ 自己調整

- 第1回【1月30日（木）】 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」を踏まえた主な検討事項と今後のスケジュールについて
- 第2回【2月17日（月）】 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方について①
- ・各教科等の中核的な概念を中心とした一層の構造化の在り方
 - ・表形式・デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 第3回【2月28日（金）】 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方について②
- ・各教科等の中核的な概念を中心とした一層の構造化の在り方
 - ・表形式・デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 第4回【3月28日（金）】 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方について①
- ・子供たちの可能性を輝かせる柔軟な教育課程編成の促進
- 第5回【4月10日（木）】 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方について②
- ・各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供の包摂
- 第6回【4月25日（金）】 学習指導要領の構造化を進めるに当たっての諸論点について
- デジタル学習基盤と「個に応じた指導」の在り方について
- ・「学びに向かう力・人間性等」、「見方・考え方」の在り方
 - ・デジタル学習基盤を前提とした学習指導要領の在り方
- 第7回【5月12日（月）】 情報活用能力について
- ・デジタル化社会の負の側面への対応を含む、情報活用能力の抜本的向上
- 第8回【5月22日（月）】 質の高い探究的な学びの実現について
- ・情報活用能力との一体的な充実を含む、質の高い探究的な学びの実現
- 第9回【6月16日（月）】 余白の創出を通じた教育の質の向上について（これまでの議論を踏まえた整理）
- ・余白の創出を通じた教育の質の向上
- 第10回【7月4日（金）】 豊かな学びに繋がる学習評価の在り方について（過度な負担を生じさせない在り方との両立）
- 幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について
- 障害のある子供に対する教育課程の充実について
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方、評価の頻度等
 - ・幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続等
 - ・通級による指導、特別支援学級、特別支援学校における教育課程の充実等

初等中等教育における
教育課程の基準等の
在り方について（諮問）

R6. 12.25

これまでの審議の経過

- 第1回【1月30日（木）】 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」を踏まえた主な検討事項と今後のスケジュールについて
- 第2回【2月17日（月）】 **質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方について①**
・各教科等の中核的な概念を中心とした一層の構造化の在り方
・表形式・デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 第3回【2月28日（金）】 **質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方について②**
・各教科等の中核的な概念を中心とした一層の構造化の在り方
・表形式・デジタル技術を活用した工夫の在り方

「諮問理由」の構造に照らして。特徴的なキーワードを以下に示します

【4つの審議事項 ①】

① 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

授業改善に直結する学習指導要領とする方策を
各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化

重要な理念の関係性の整理を

「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一層の充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等

デジタル学習基盤の活用を前提とした示し方を

評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方を
特に、「主体的に学習に取り組む態度」

初等中等教育における
教育課程の基準等の
在り方について（諮問）

R6. 12.25

見方
考え方
考え方
表形式
・箇条書き

- 第1回【1月30日（木）】 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」を踏まえた主な検討事項と今後のスケジュールについて
- 第2回【2月17日（月）】 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方について①
 - ・各教科等の中核的な概念を中心とした一層の構造化の在り方
 - ・表形式・デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 第3回【2月28日（金）】 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方について②
 - ・各教科等の中核的な概念を中心とした一層の構造化の在り方
 - ・表形式・デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 第4回【3月28日（金）】 **多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程の在り方について①**
 - ・子どもたちの可能性を輝かせる柔軟な教育課程編成の促進
- 第5回【4月10日（木）】 **多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程の在り方について②**
 - ・各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供の包摂

「諮問理由」の構造に照らして、特徴的なキーワードを以下に示します

論点について
うについて
え方」の在り方
の在り方

【4つの審議事項 ②】

② 多様な子どもたちを包摂する 柔軟な教育課程の在り方

学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境を

デジタル学習基盤を前提とした学びや教師の指導性を

柔軟な教育課程編成の促進の在り方を

特例校制度、標準授業時数に係る柔軟性、単位授業時間や年間の最低授業週数の
示し方

一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシステムを

情報活用能力の抜本的向上
単位授業時間
(過度な負担を生じさせない在り方との両立)
この円滑な接続の改善について
裁量的な時間
り方、評価の頻度等
育との円滑な接続等
校における教育課程の充実等

初等中等教育における
教育課程の基準等の
在り方について（諮問）

R6. 12.25

【4つの審議事項 ①】

① 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

授業改善に直結する学習指導要領とする方策を
各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化

重要な理念の関係性の整理を

「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等

デジタル学習基盤の活用を前提とした示し方を

評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方を
特に、「主体的に学習に取り組む態度」

○第6回【4月25日（金）】

学習指導要領の構造化を進めるに当たっての諸論点について
デジタル学習基盤と「個に応じた指導」の在り方について

- ・「学びに向かう力・人間性等」、「見方・考え方」の在り方
- ・デジタル学習基盤を前提とした学習指導要領の在り方

○第7回【5月12日（月）】

情報活用能力について

- ・デジタル化社会の負の側面への対応を含む、情報活用能力の抜本的向上

○第8回【5月22日（月）】

質の高い探究的な学びの実現について

- ・情報活用能力との一体的な充実を含む、質の高い探究的な学びの実現

○第9回【6月16日（月）】

余白の創出を通じた教育の質の向上について（これまでの議論を踏まえた整理）

- ・余白の創出を通じた教育の質の向上

○第10回【7月4日（金）】

豊かな学びに繋がる学習評価の在り方について（過度な負担を生じさせない在り方との両立）

幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について

障害のある子供に対する教育課程の充実について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方、評価の頻度等
- ・幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続等
- ・通級による指導、特別支援学級、特別支援学校における教育課程の充実等

これまでの審議の経過

在り方について（諮問）」を踏まえた主な検討事項

使いやすい学習指導要領の在り方について①

層の構造化の在り方

在り方

使いやすい学習指導要領の在り方について②

層の構造化の在り方

在り方

在り方について①

課程編成の促進

在り方について②

心が難しい子供の包摂

初等中等教育における 教育課程の基準等の 在り方について（諮問）

R6. 12.25

学びに
向かう力、
人間性等

の再整理

これまでの審議の経過

「諮問理由」の構造に照らして、特徴的なキーワードを以下に示します

【4つの審議事項 ③】

③ 各教科等やその目標・内容の在り方

情報活用能力の抜本的向上を図る方策を

生成AI等に関する教育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化

質の高い探究的な学びを実現する「総合」、「総探」の改善を

情報活用能力の育成との一体的な充実等

生成AIの活用を含む外国語教育、外国語を学ぶ意義を

主体的に社会参画するための教育の改善の在り方を

障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方を

幼小の円滑な接続の改善、幼児教育の質の向上を図る共通の方策を

の在り方について（諮問）」を踏まえた主な検討事項

く使いやすい学習指導要領の在り方について①

-層の構造化の在り方

の在り方

く使いやすい学習指導要領の在り方について②

-層の構造化の在り方

の在り方

の在り方について①

等課程編成の促進

の在り方について②

対応が難しい子供の包摂

の諸論点について

在り方について

「・考え方」の在り方

等要領の在り方

初等中等教育における 教育課程の基準等の 在り方について（諮問）

R6. 12.25

○第7回【5月12日（月）】 情報活用能力について

- ・デジタル化社会の負の側面への対応を含む、情報活用能力の抜本的向上

○第8回【5月22日（月）】 質の高い探究的な学びの実現について

- ・情報活用能力との一体的な充実を含む、質の高い探究的な学びの実現

○第9回【6月16日（月）】 余白の創出を通じた教育の質の向上について（これまでの議論を踏まえた整理）

- ・余白の創出を通じた教育の質の向上

○第10回【7月4日（金）】 豊かな学びに繋がる学習評価の在り方について（過度な負担を生じさせない在り方との両立）

幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について

障害のある子供に対する教育課程の充実について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方、評価の頻度等

- ・幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続等

- ・通級による指導、特別支援学級、特別支援学校における教育課程の充実等

情報の
領域

【4つの審議事項 ①】

① 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

授業改善に直結する学習指導要領とする方策を
各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化

重要な理念の関係性の整理を

「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等

デジタル学習基盤の活用を前提とした示し方を

評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方を
特に、「主体的に学習に取り組む態度」

○第6回【4月25日（金）】

学習指導要領の構造化を進めるに当たっての諸論点について
デジタル学習基盤と「個に応じた指導」の在り方について

- ・「学びに向かう力・人間性等」、「見方・考え方」の在り方
- ・デジタル学習基盤を前提とした学習指導要領の在り方

○第7回【5月12日（月）】

情報活用能力について

- ・デジタル化社会の負の側面への対応を含む、情報活用能力の抜本的向上

○第8回【5月22日（月）】

質の高い探究的な学びの実現について

- ・情報活用能力との一体的な充実を含む、質の高い探究的な学びの実現

○第9回【6月16日（月）】

余白の創出を通じた教育の質の向上について（これまでの議論を踏まえた整理）

- ・余白の創出を通じた教育の質の向上

○第10回【7月4日（金）】

豊かな学びに繋がる学習評価の在り方について（過度な負担を生じさせない在り方との両立）

幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について

障害のある子供に対する教育課程の充実について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方、評価の頻度等
- ・幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続等
- ・通級による指導、特別支援学級、特別支援学校における教育課程の充実等

これまでの審議の経過

在り方について（諮問）」を踏まえた主な検討事項

使いやすい学習指導要領の在り方について①

層の構造化の在り方

在り方

使いやすい学習指導要領の在り方について②

層の構造化の在り方

在り方

在り方について①

課程編成の促進

在り方について②

心が難しい子供の包摂

初等中等教育における 教育課程の基準等の 在り方について（諮問）

R6. 12.25

学びに
向かう力、
人間性等

の再
整理



「学びに向かう力、人間性等」に係る現状と主な課題

【学習指導要領上の位置づけ】

「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力としての位置づけ

- 児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関する「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）をどのような方向で働かせていくかを決定付けるものと整理されている。
- その要素は多岐にわたるが、概ね以下のように整理できる。

①主体的に学習に取り組む態度、メタ認知等

主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度 など

②協働する力、持続可能な社会づくり、感性・人間性等

多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど

各教科の「目標」での記述（例）

小学校国語

言葉がもつよさを認識とともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

中学校理科

自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

中学校音楽

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

高等学校数学

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

【顕在化している課題】

1. 学びに向かう力等の育成は道半ば

- 左記①については、我が国の児童生徒は、
 - ✓ 自律的に学ぶ自信がある子供、
 - ✓ 自分で課題を立て探究に取り組む子供
 - ✓ うまくいか分からなことに意欲的に取り組む子供
 - ✓ 自分の考えを持つ子や夢を持つ子供の割合が低い。※日本企業の従業員のワークエンゲージメントが低いとのデータもある
- 左記②については、
 - ✓ 社会参画の意識は向上傾向だが、依然として他国と比べて弱い
 - ✓ 自己有用感が低い
- 変化の激しい時代において、自身の思いや願い・意志を実現し、自身の人生を主体的に舵取りしていく力が求められている中、全体として「学びに向かう力、人間性等」を涵養できる学校教育の実現は道半ば。

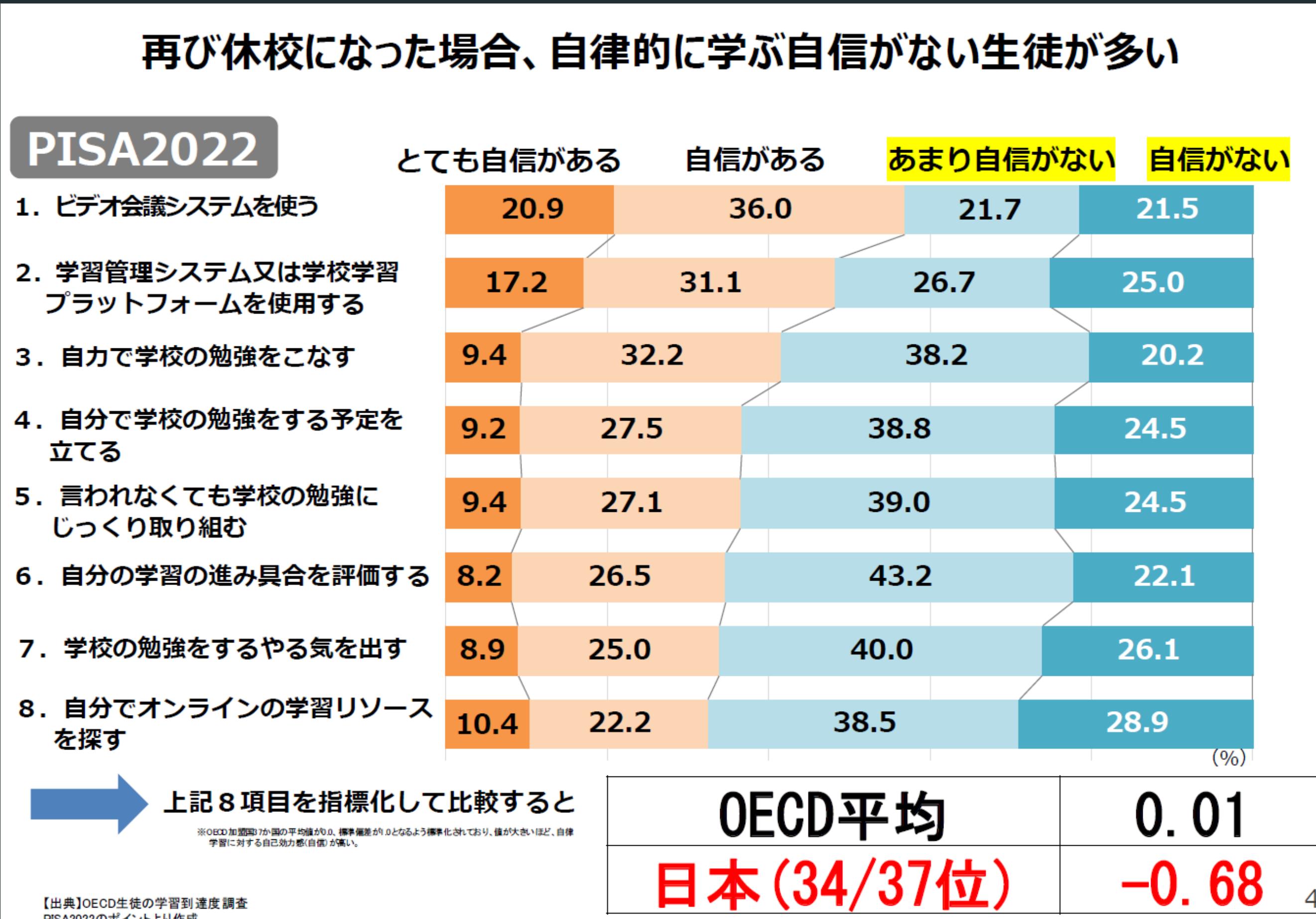
こうした視点で学習指導要領等を見てみると

2. 育成を目指す資質・能力の具体が理解しにくい

- 「学びに向かう力、人間性等」として、多岐にわたる要素が列挙されているが、全体像が分かりにくい。近年注目されているウエルビーイングやエージェンシーとの関係も整理が必要。
- 「学びに向かう力、人間性等」に対応した学習評価の観点として「主体的に学習に取り組む態度」を設定したが、当該観点の2側面である「粘り強さ」「自己調整」に矮小化されて「学びに向かう力、人間性等」が理解されているとの指摘がある。
- 上記1. の我が国の児童生徒の課題を踏まえて、学校現場の実践に繋がる分かりやすい構造的な再整理を行う必要。

学びに向かう力、人間性等に係る現状と課題

再び休校になった場合、自律的に学ぶ自信がない生徒が多い

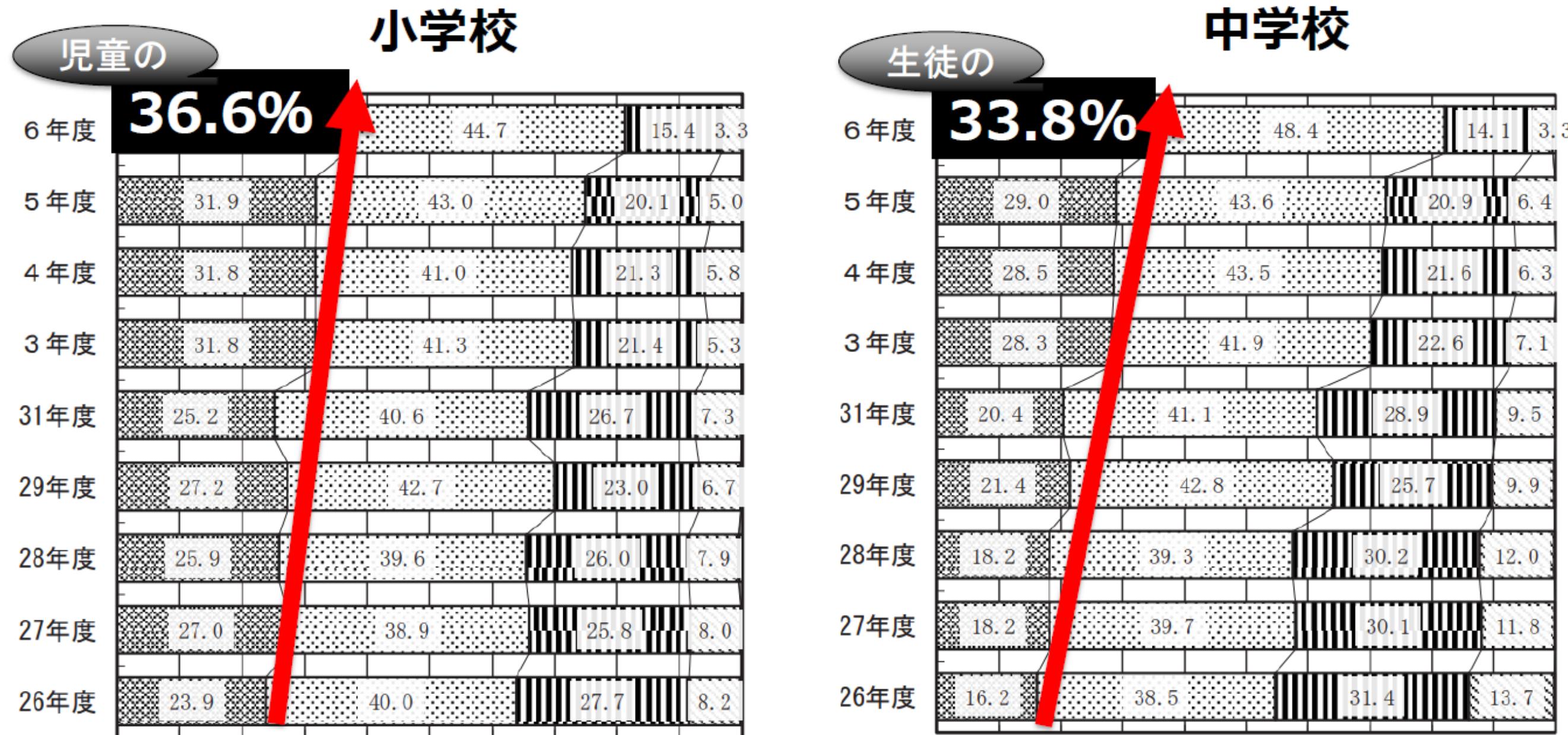


学びに向かう力、人間性等に係る現状と課題

自分で課題を立てて情報を集めたり発表する学習の状況

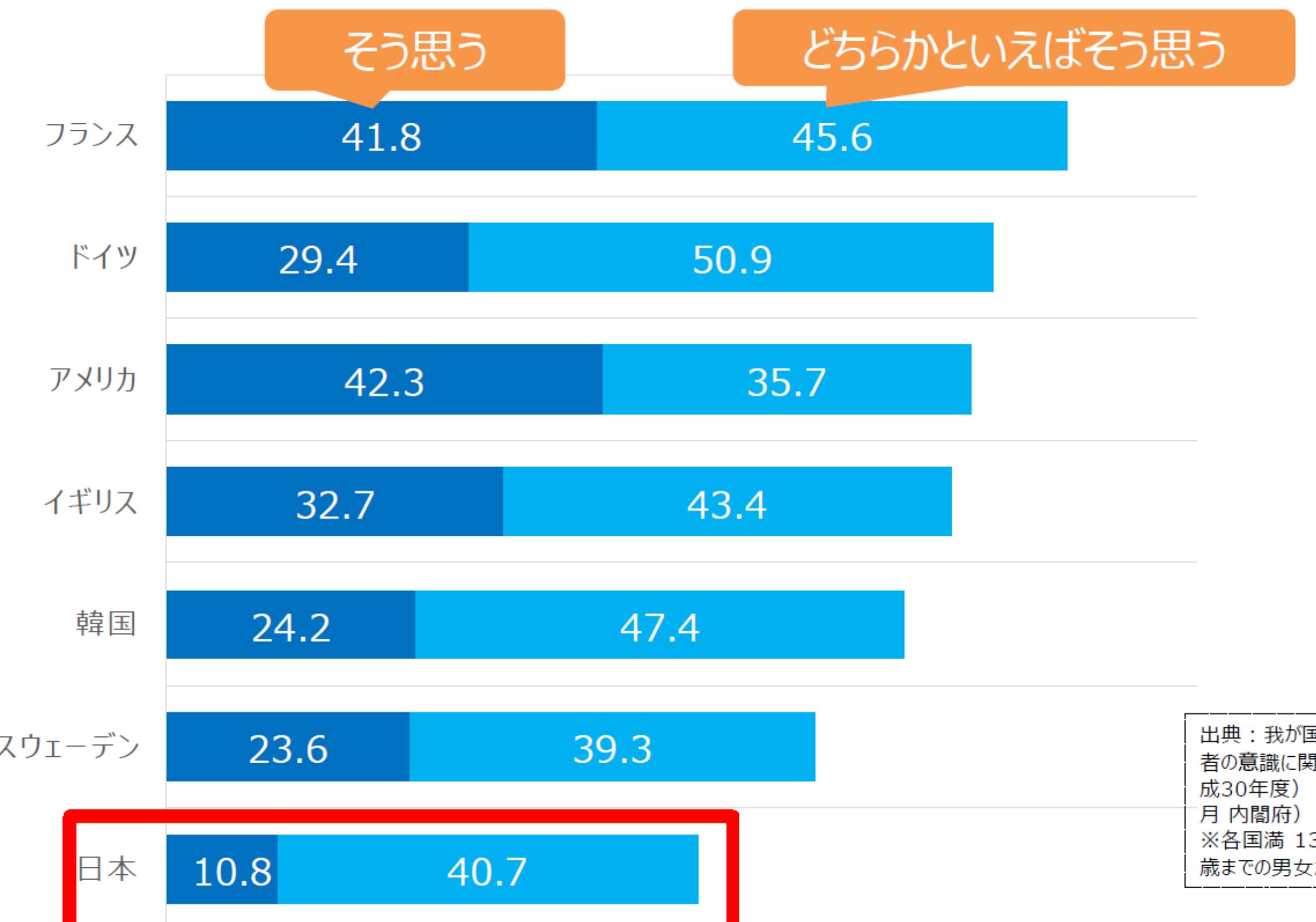
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して、「当てはまる」は増加傾向だが、未だ3～4割。

R6全国学調



学びに向かう力、人間性等に係る現状と課題

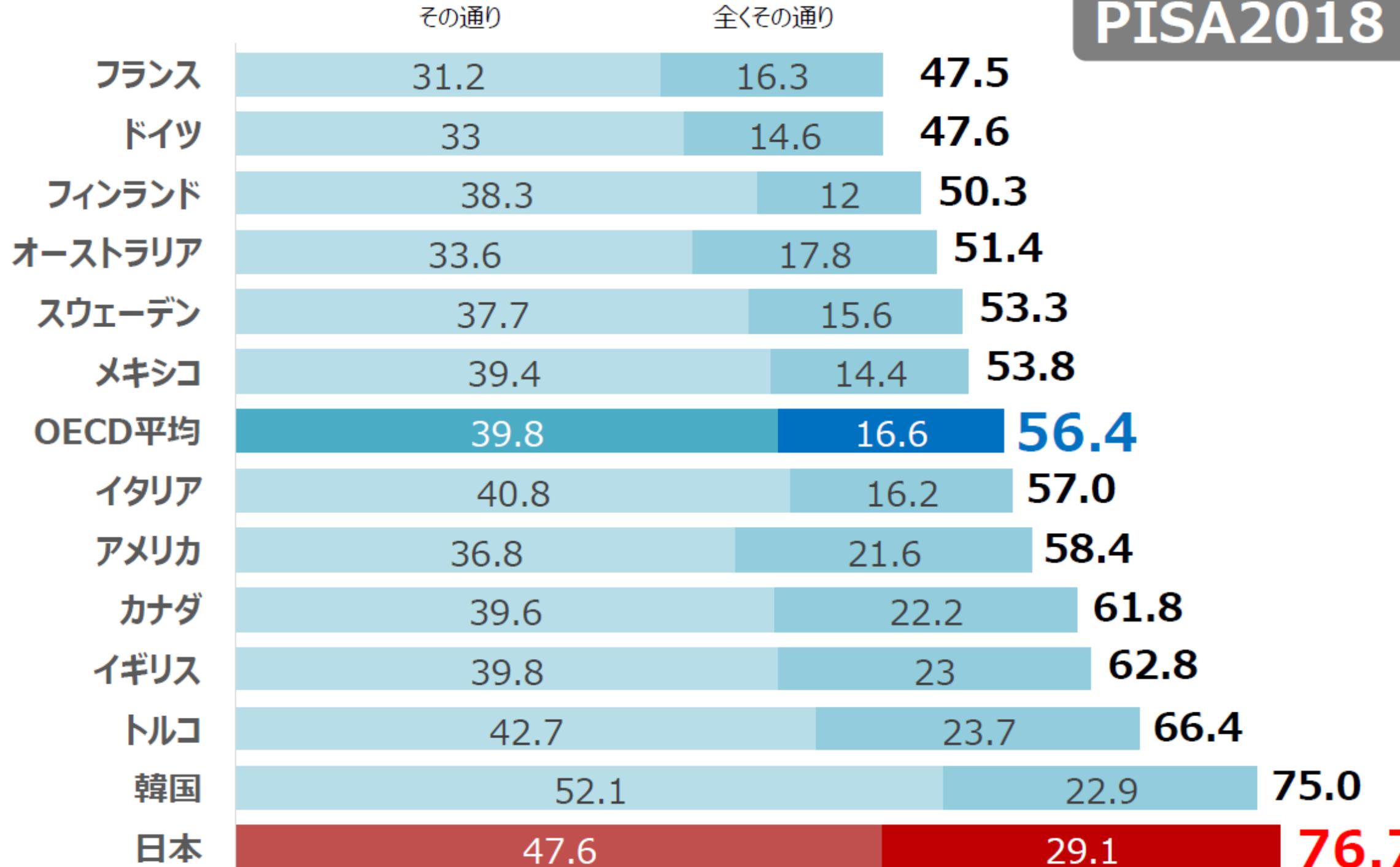
うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む割合が諸外国より低い



学びに向かう力、人間性等に係る現状と課題

失敗を恐れる生徒が多い

PISA2018



出典：OECD PISA 2018質問紙調査
「失敗しそうなとき、他の人が自分のことをどう思うかが気になる」
「その通りだ」「全くその通りだ」

学びに向かう力、人間性等に係る現状と課題

「自分の考え」を書くことが苦手

全国学力・学習状況調査では、自分の考えをまとめたり書いたりする問題の正答率に課題が見られる。

小学校・国語

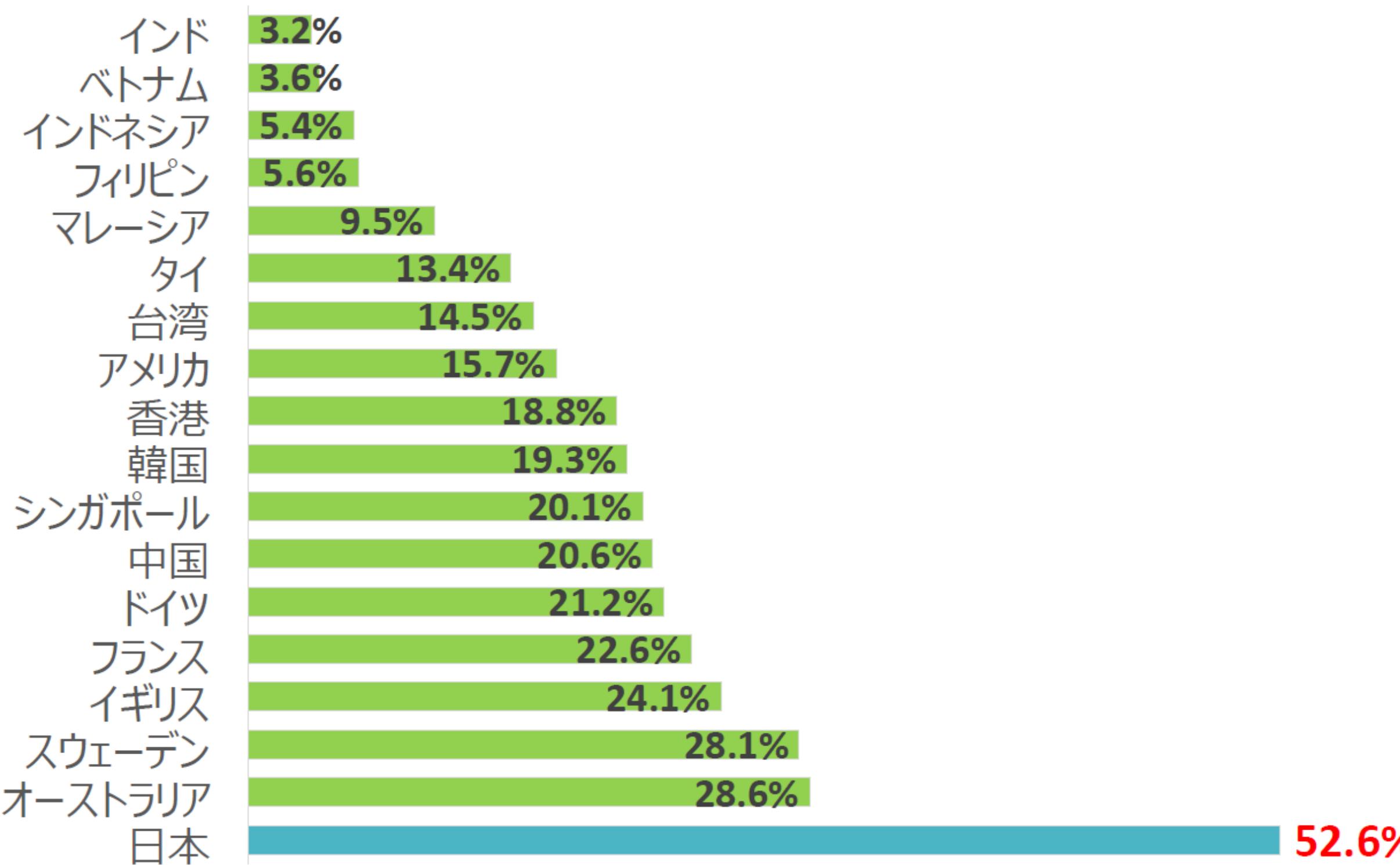
問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□でどのように話すかを書く（R 4）	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、 自分の考え をまとめる	47.8%	3.0%
【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く（R 5）	図表やグラフなどを用いて、 自分の考え が伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る	26.8%	7.0%
資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く（R 5）	文章を読んで理解したことに基づいて、 自分の考え をまとめることができるかどうかを見る	56.4%	8.4%

中学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように 考えた理由 を書く（R 3）	話合いの話題や方向を捉えて、 話す内容 を考える	57.5%	3.3%
農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える（R 4）	自分の考え が伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	46.5%	8.8%

学びに向かう力、人間性等に係る現状と課題

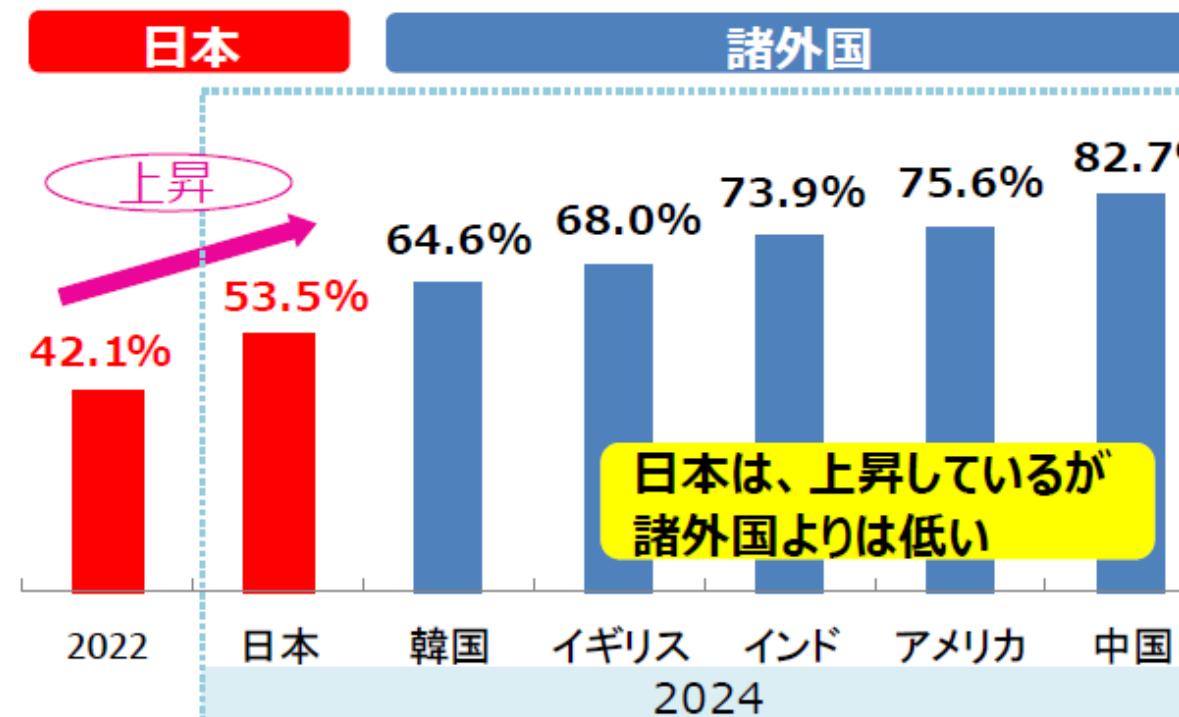
社会人になってからも自己研鑽・自己啓発を行わない人の割合が高い



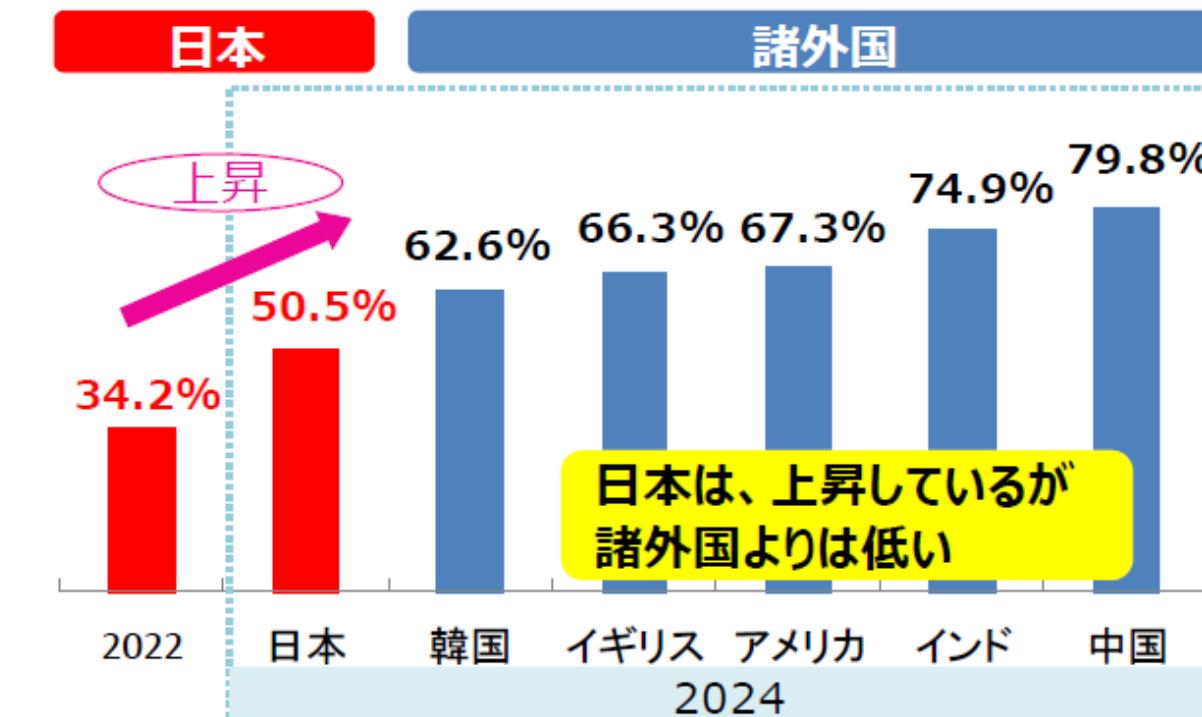
学びに向かう力、人間性等に係る現状と課題

社会に対する若者の意識が諸外国に比べて低い

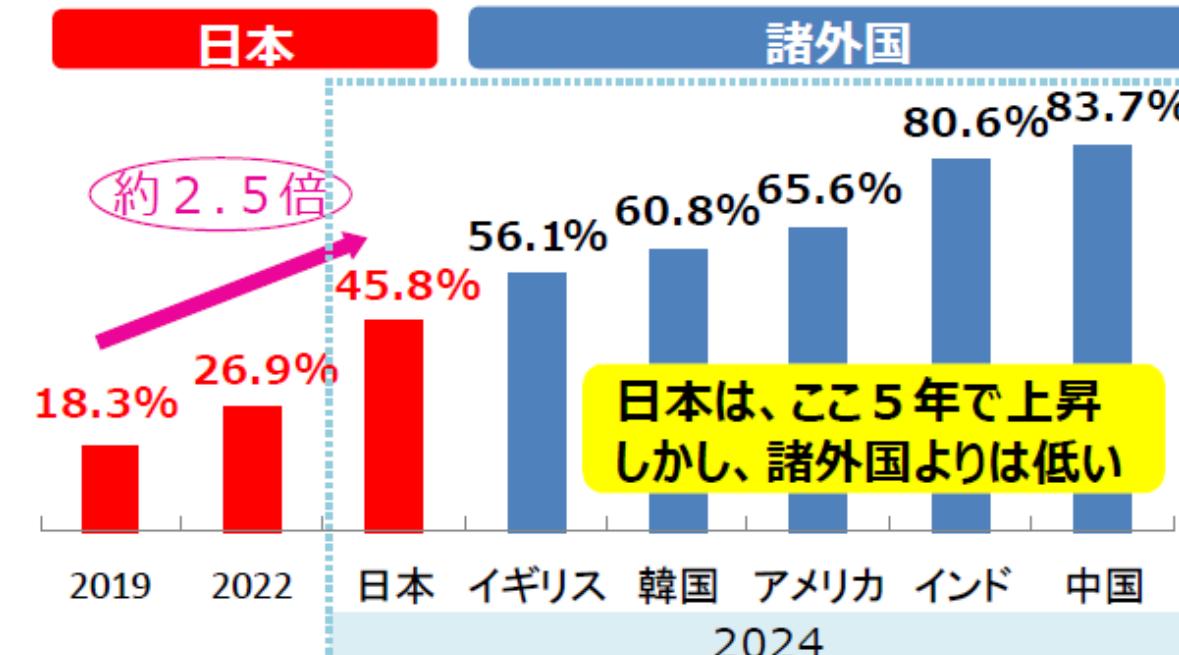
①政治や選挙、社会問題について、自分の考えを持っている



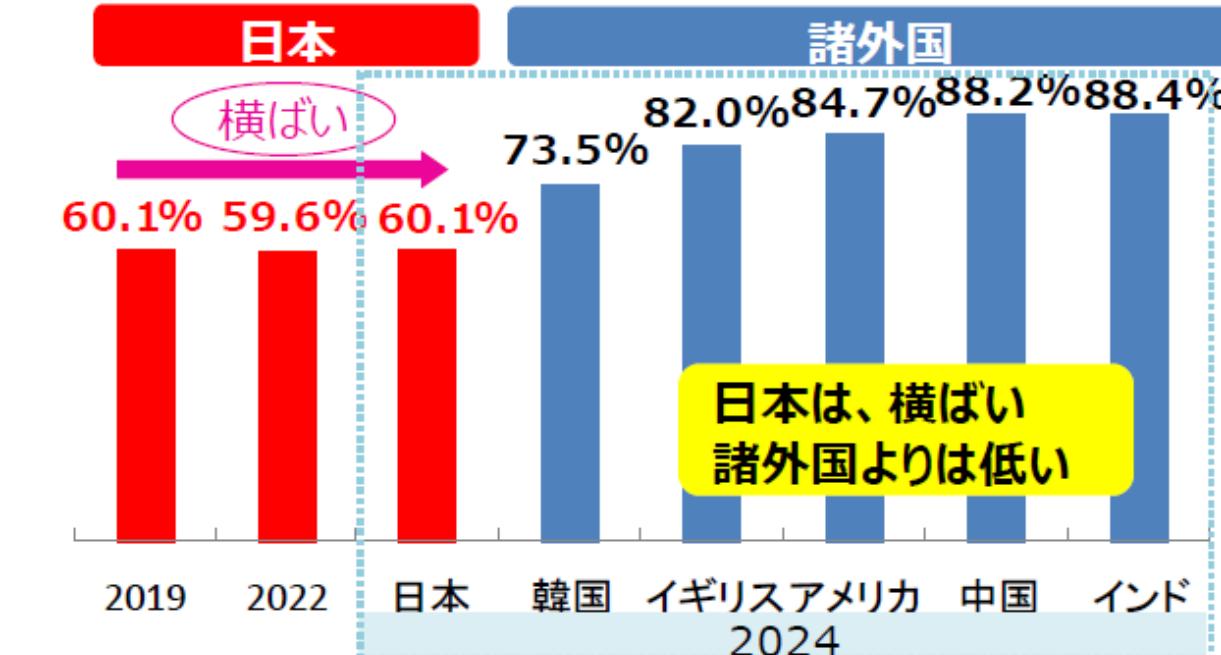
②政治や選挙、社会問題について家族や友人と議論することがある



③自分の行動で国や社会を変えられると思う



④将来の夢を持っている



第11回 教育課程企画特別部会の話題から

その他諮問で提起された諸論点①

**子供のより主体的な社会参画
に関する教育の改善**

第11回 教育課程企画特別部会の話題から

改善の方向性と具体的論点（案）

子供のより主体的な社会参画に関わる教育の改善に向け、以下のような方向で検討してはどうか（詳しくは関連するWGで議論）

1. 子供の社会参画に関わる教育内容の充実

＜全ての教科を通じた改善＞

- ① 社会科・公民科を中心としつつ、関連する教科等のWGで、子供の社会参画や意見表明を推進する観点から、見直すべき点がないか検討してはどうか
※模擬議会・模擬選挙など、地域社会と連携した実践的な学習活動の推進方策については、総務省と協議
- ② 全ての教科等を通じて、自分の意見の根拠を持った説明、一方的な意見の主張に止まらない対話を含む「協働的な学び」を一層重視してはどうか
※5月12日特別部会にて、フィルターバブル・エコーチェンバーの影響が強く指摘される中、情報モラルやメディアリテラシーの育成を重視する方向性をはじめ、情報活用能力の抜本的向上について議論。これらも社会参画に関わる教育内容の改善の一環として捉えつつ、今後関連する教科等のWGで検討を深める。

＜特別活動における改善＞

※特別活動：「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働きかせ、よりよい集団や学校生活を目指して様々な活動に実践的に取り組む領域

- ① 身近な社会である学級・学校で、多様な個性や特性、背景を持つ他者との対話や協働により、児童生徒が主体となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する領域として、特別活動の位置づけを明確化してはどうか
- ② 児童会・生徒会活動について、教師の適切な指導のもと、校則など学校のルールの設定をはじめとする学校運営に発達段階に応じて子供が関わる仕組みであることを、教育的活動であるという性質に十分配慮しつつ、明示的に示してはどうか（補足イメージ 取組例①②）
- ③ 学校行事について、各行事の特質や教師の過度な負担を生じさせない観点を踏まえつつ、子供たちが創造する活動である旨をより明確にしてはどうか（取組例①）
- ④ 学級活動について、学級内の多様性を前提に、共生社会の実現に向けた納得解を形成しようとするこの重要性をより明確に位置付けてはどうか。このことが社会的障壁の低減や教育課程全体の包摂性の向上に資する可能性についてどう考えるか（取組例③）
- ⑤ 子供が自主的、実践的に取り組む活動という特別活動の特質を踏まえ、学習評価の運用が過度に仔細なものとならないよう、評価の質を向上させるための合理化を検討してはどうか

2. 取組を促進する方策の充実

＜教師の負担への配慮等＞

- ① 児童生徒の意見を活かした学校運営やルールの形成等の取組を円滑かつ豊かなものにできるよう、クラウドツールの活用方法を含め、意見表明を過度な負担なく学校の様々な活動や運営に繋げる好事例等について、整理・提供してはどうか
- ② 児童生徒の参画や意見を活かした学校運営、授業づくりに関する指導上の工夫等について、学校管理職や教師等に対する研修を充実させてはどうか

＜子供の意見を反映させる受け皿の整備＞

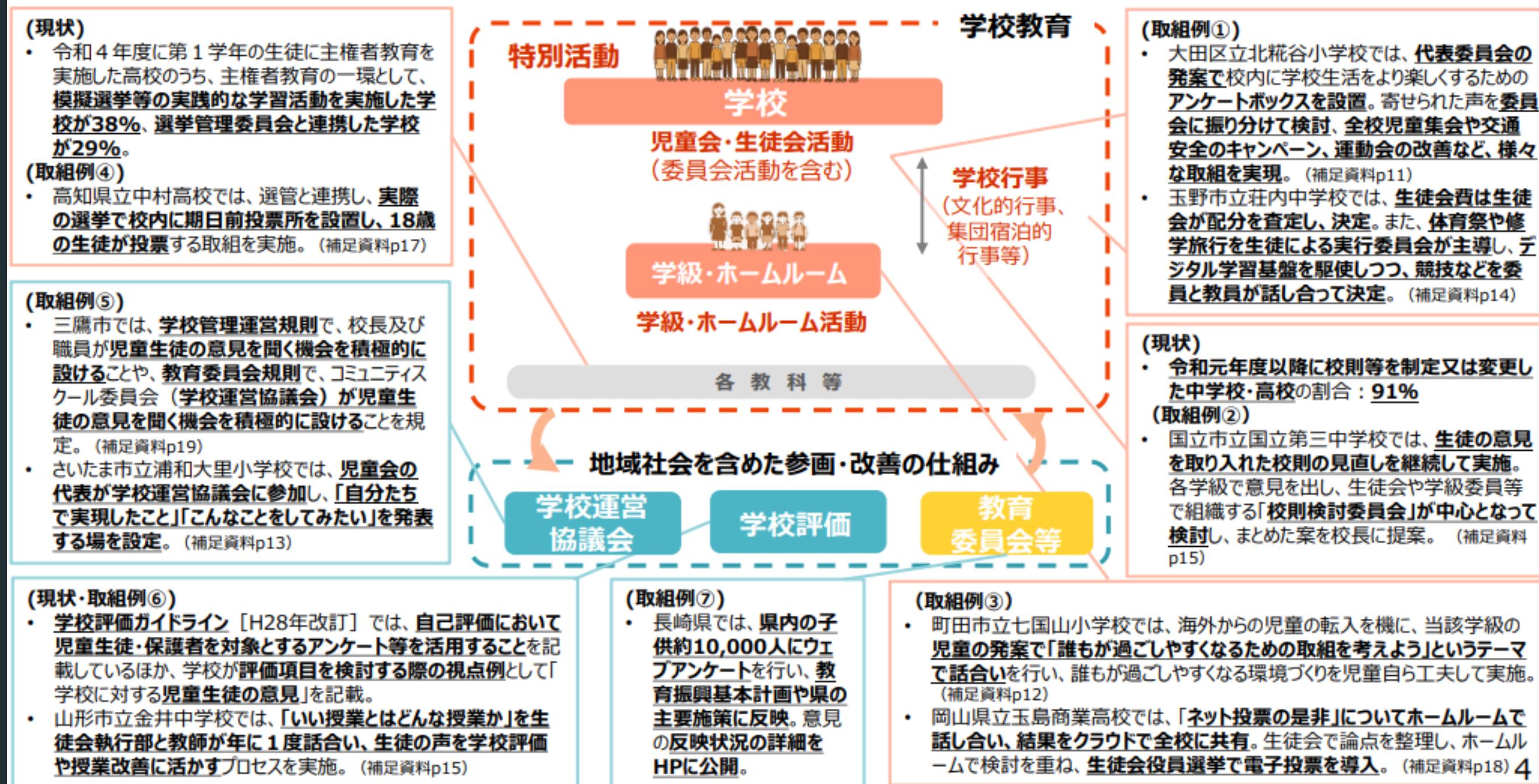
- ① 子供が学校生活での気づきや悩みをクラウドで寄せができる仕組みなど、学校運営の包摂性を高める取組の一環として、教師の過度な負担なく児童生徒の声を聞く取組を促すことを検討してはどうか
- ② 学校運営協議会制度（コミュニティスクール）において、子供の社会参画を促す方策を検討してはどうか（取組例⑤）
 - 子供の社会参画や意見表明の推進を議題とする
 - 子供自身が学校運営協議会に参画する
- ③ 学校評価において、学校運営の評価・改善プロセスに子供が関わることについて、子供の社会参画に関わる教育内容と関連づけることを促すことを検討してはどうか（取組例⑥）
- ④ 教育振興基本計画や教育大綱の策定をはじめとする地方公共団体での議論において、子供の意見表明の機会を設ける等、学校を超えて子供の社会参画を促すことを検討してはどうか（取組例⑦）

第11回 教育課程企画特別部会の話題から

子供のより主体的な社会参画に関する教育の改善

補足イメージ

- 民主的かつ公正な社会の基盤としての機能を学校が果たしていく上で、子供の社会参画や意見表明の一層の具現化が求められる中、学級や学校という身近な社会の形成に当事者として参画し、対話や協働を通じて改善することにより、主体的・実践的に社会参画する力を育むことができるよう、特別活動を中心として見直しを図ってはどうか。
- その際、学校での取組と評価・改善等の仕組みの両面から検討してはどうか。





「学びに向かう力、人間性等」に係る現状と主な課題

【学習指導要領上の位置づけ】

「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力としての位置づけ

- 児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関する「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）をどのような方向で働かせていくかを決定付けるものと整理されている。
- その要素は多岐にわたるが、概ね以下のように整理できる。

①主体的に学習に取り組む態度、メタ認知等

主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度 など

②協働する力、持続可能な社会づくり、感性・人間性等

多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど

各教科の「目標」での記述（例）

小学校国語

言葉がもつよさを認識とともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

中学校理科

自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

中学校音楽

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

高等学校数学

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

【顕在化している課題】

1. 学びに向かう力等の育成は道半ば

- 左記①については、我が国の児童生徒は、
 - ✓ 自律的に学ぶ自信がある子供、
 - ✓ 自分で課題を立て探究に取り組む子供
 - ✓ うまくいか分からなことに意欲的に取り組む子供
 - ✓ 自分の考えを持つ子や夢を持つ子供の割合が低い。※日本企業の従業員のワークエンゲージメントが低いとのデータもある
- 左記②については、
 - ✓ 社会参画の意識は向上傾向だが、依然として他国と比べて弱い
 - ✓ 自己有用感が低い
- 変化の激しい時代において、自身の思いや願い・意志を実現し、自身の人生を主体的に舵取りしていく力が求められている中、全体として「学びに向かう力、人間性等」を涵養できる学校教育の実現は道半ば。

こうした視点で学習指導要領等を見てみると

2. 育成を目指す資質・能力の具体が理解しにくい

- 「学びに向かう力、人間性等」として、多岐にわたる要素が列挙されているが、全体像が分かりにくい。近年注目されているウエルビーイングやエージェンシーとの関係も整理が必要。
- 「学びに向かう力、人間性等」に対応した学習評価の観点として「主体的に学習に取り組む態度」を設定したが、当該観点の2側面である「粘り強さ」「自己調整」に矮小化されて「学びに向かう力、人間性等」が理解されているとの指摘がある。
- 上記1. の我が国の児童生徒の課題を踏まえて、学校現場の実践に繋がる分かりやすい構造的な再整理を行う必要。

※学習評価自体の在り方については別途検討

学びに向かう力、 人間性等

従来

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力
- ・自己の感情や行動を統制する力
- ・よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度
- ・メタ認知に関わる力を含む
- ・多様性を尊重する態度
- ・互いのよさを生かして協働する力
- ・持続可能な社会づくりに向けた態度
- ・リーダーシップやチームワーク
- ・感性、優しさ、思いやり

【別紙】 学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ（素案）

【現行の整理】

小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。

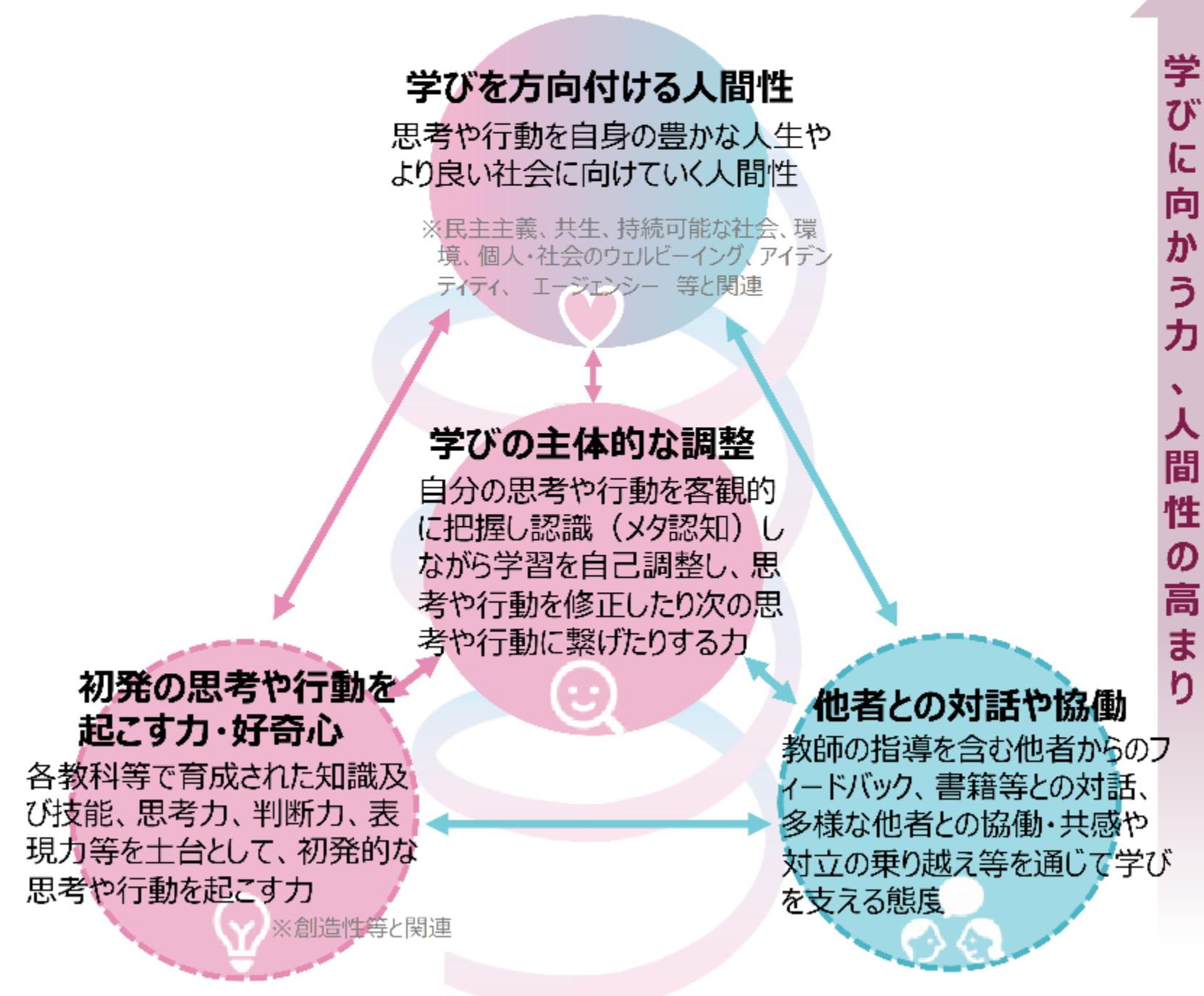
（中略）

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【今後の整理イメージ（素案）】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む



学びに向かう力、人間性等

従来

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力
- ・自己の感情や行動を統制する力
- ・よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度
- ・メタ認知に関わる力を含む
- ・多様性を尊重する態度
- ・互いのよさを生かして協働する力
- ・持続可能な社会づくりに向けた態度
- ・リーダーシップやチームワーク
- ・感性、優しさ、思いやり

【別紙】 学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ（素案）

【現行の整理】

小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。

（中略）

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【今後の整理イメージ（素案）】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む



学びに向かう力、 人間性等

再整理

- 初発の思考や行動を起こす力・好奇心
- 学びの主体的な調整
- 他者との対話や協働
- 学びを方向付ける人間性

【別紙】 学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ（素案）

【現行の整理】

小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。
(中略)

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【今後の整理イメージ（素案）】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む

学びに向

性の高まり

1

自己内
メタ

学びを方向付ける人間性

思考や行動を自身の豊かな人生やより良い社会に向けていく人間性

※民主主義、共生、持続可能な社会、環境、個人・社会のウェルビーイング、アイデティティ、エージェンシー等と関連

他者との
対話・協働

学びの主体的な調整

自分の思考や行動を客観的に把握し認識（メタ認知）しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動に繋げたりする力

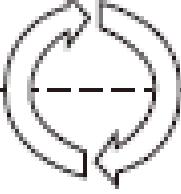
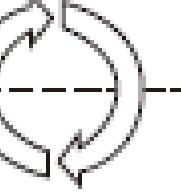
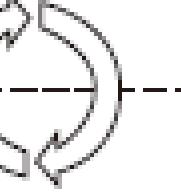
初発の思考や行動を
起こす力・好奇心

各教科等で育成された知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を土台として、初発的な思考や行動を起こす力

※創造性等と関連

他者との対話や協働

教師の指導を含む他者からのフィードバック、書籍等との対話、多様な他者との協働・共感や対立の乗り越え等を通じて学びを支える態度

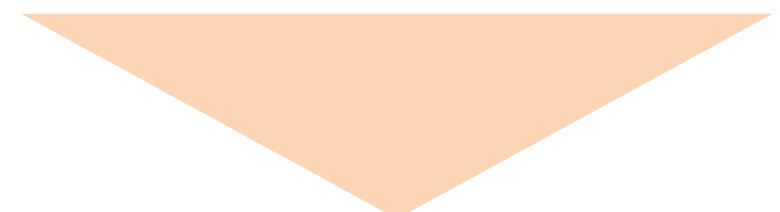
学びに向かう力、人間性等			
	例) 自己理解・他者理解	例) 主体性・協働性	例) 将来展望・社会参画
自分自身に 関すること	探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする 	自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする 	探究的な活動を通して、自己的生き方を考え、夢や希望などをもとうとする 
他者や社会との 関わりに 関すること	探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする	自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする	探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする

学びに向かう力、人間性等については、自分自身にすること及び他者や社会との関わりにすることとの両方の視点を踏まえること。（学習指導要領 第5章第2の3の(6)のウ）

○初発の思考や行動を起こす力・好奇心

各教科等で育成された知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を土台として、**初発的な思考や行動を起こす力**

※創造性等と関連



主体性

自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする

学びに向かう力、人間性等

再整理

○初発の思考や行動を起こす力・好奇心

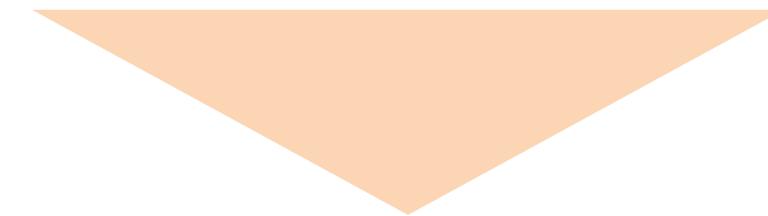
○学びの主体的な調整

○他者との対話や協働

○学びを方向付ける人間性

○学びの主体的な調整

自分の思考や行動を客観的に把握し認識（メタ認知）しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動に繋げたりする力



主体性

自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする

自己理解

探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする

学びに向かう力、人間性等

再整理

○初発の思考や行動を起こす力・好奇心

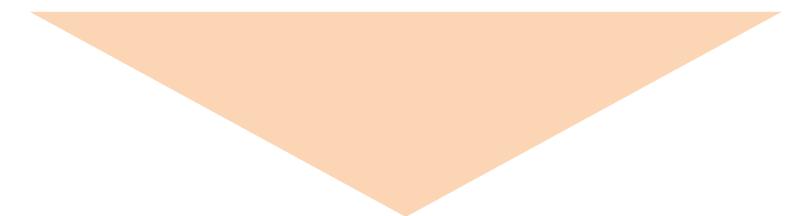
○学びの主体的な調整

○他者との対話や協働

○学びを方向付ける人間性

○他者との対話や協働

教師の指導を含む他者からのフィードバック、書籍等との対話、
多様な他者との協働・共感や対立の乗り越え等を通じて学びを支える態度



協働性

自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする

他者理解

探究的な活動を通して、**異なる意見や他者の考え方を受け入れて尊重**しようとする

学びに向かう力、人間性等

再整理

○初発の思考や行動を起こす力・好奇心

○学びの主体的な調整

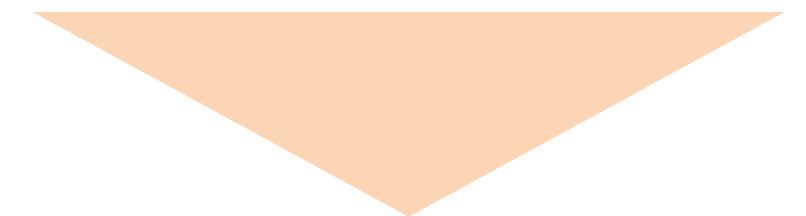
○他者との対話や協働

○学びを方向付ける人間性

○学びを方向付ける人間性

思考や行動を自身の豊かな人生やより良い社会に向けていく人間性

※民主主義、共生、持続可能な社会、環境、個人・社会のウェルビーイング、アイデンティティ、エージェンシー等と関連



将来展望

探究的な活動を通して、**自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする**

社会参画

探究的な活動を通して、**進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする**

学びに向かう力、人間性等

再整理

○初発の思考や行動を起こす力・好奇心

○学びの主体的な調整

○他者との対話や協働

○学びを方向付ける人間性

学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関するこの両方の視点を踏まえること。（学習指導要領 第5章第2の3の(6)のウ）

課題の解決においては、主体的に取り組むこと、協働的に取り組むことが重要である。なぜなら、それがよりよい課題の解決につながるからである。

総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力は、よりよく課題を解決し、自分の生き方を考えるための資質・能力である。こうした資質・能力を育むためには、自ら問い合わせを見いだし、課題を立て、よりよい解決に向けて主体的に取り組むことが重要である。他方、複雑な現代社会においては、いかなる問題についても、一人だけの力で何かを成し遂げることは困難である。これが協働的に探究を進めることが求められる理由である。例えば、他の児童と協働的に取り組むことで、学習活動が発展したり課題への意識が高まったりする。異なる見方があることで解決への糸口もつかみやすくなる。また、他者と協働的に学習する態度を育てることが、求められているからである。このように、探究的な学習においては、他者と協働的に取り組み、異なる意見を生かして新たな知を創造しようとする態度が欠かせない。

こうして探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合う関係が期待されている。また、探究的な学習の中で児童が感じる手応えは、一人一人の意欲や自信となり次の課題解決を推進していく。

このように、総合的な学習の時間を通して、自ら社会に関わり参画しようとする意志、社会を創造する主体としての自覚が、一人一人の児童の中に徐々に育成されることが期待されているのである。実社会や実生活の課題を探究しながら、自己の生き方を問い合わせ続ける姿が一人一人の児童に涵養されることが求められているのである。

この「学びに向かう力、人間性等」については、よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだり異なる他者と力を合わせたりすること、社会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい態度として「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を活用・発揮しようとすることと考えることができる。

学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関ることの両方の視点を踏まえること。（学習指導要領 第5章第2の3の(6)のウ）

課題の解決において ながるからである。

総合的な学習の時間
る。こうした資質・能
ある。他方、複雑な現
像を問題視して、自立的・
効率的に探究を進めるこ
とが求められる。
起きた力・好奇心
各教科等で育成された知識及
び技能、思考力、判断力、表
現力等を土台として、初発的
な問題を発見し、自ら問題を
思考や行動を起こす力
※創造性等と並んで、この力
は、問題解決のための力として
位置づけられる。

識が高まつたりする。異なる見方があることが、求められているからでもある。このように知を創造しようとする態度が欠かせない。

こうして探究的な学習に主体的・協働的に取り組むこと、また、探究的な学習の中で児童が感じる手応え

<p>このように 一人の児童の ける姿が一人 この「学び なる他者と力 判断力、表現</p>	 <p>学びを方向付ける人間性 思考や行動を自身の豊かな人生や より良い社会に向けていく人間性</p> <p>※民主主義、共生、持続可能な社会、環 境、個人・社会のウェルビーイング、アイデン ティティ、エージエンシー 等と関連</p>	<p>を通して、 ことが期待 することが求 」について 社会に寄 ようとする</p>
---	--	---

組むこと、協働的に取り組むことが重要である。なぜなら

自ら問い合わせだし、課題を立て、よりよい解決に向けて主体的に取り組むことが重要で、一人だけの力で何かを成し遂げることは困難である。これが協同的学びの主体的な調整である。

みやすくなる。また、他者と協働的に学習する
については、他者と協働的に取り組み、異なる意

手応えは、一人一人の意欲や自信となり次の課題解決を推進していく。して、**自ら社会に関わり参画しようとする意志、社会を創造する主体**とされることが期待されているのである。実社会や実生活の課題を探究しながら、**自己の生き方を問い合わせ**などが求められているのである。ついては、**よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだり異会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい態度**として「知識及び技能」や「思考力、とすることと考えることができる。

他者との対話や協働

他者との対話や協働

【4つの審議事項 ①】

① 質の高い、深い学びを実現し、分かり

やすく使いやすい学習指導要領の在り方

授業改善に直結する学習指導要領とする方策を

各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化

重要な理念の関係性の整理を

「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等

デジタル学習基盤の活用を前提とした示し方を

評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方を

特に、「主体的に学習に取り組む態度」

どの審議の経過

」を踏まえた主な検討事項

領の在り方について①

領の在り方について②

主体的に学習に

取り組む態度の評価

在り方について（諮問）

R6. 12.25

TOPIC / INDEX / BACK / FORWARD

・デジタル化社会の負の側面への対応を含む、情報活用能力の抜本的向上

質の高い探究的な学びの実現について

・情報活用能力との一体的な充実を含む、質の高い探究的な学びの実現

余白の創出を通じた教育の質の向上について（これまでの議論 を踏まえた整理）

・余白の創出を通じた教育の質の向上

豊かな学びに繋がる学習評価の在り方について（過度な負担を生じさせない在り方との両立）

幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について

障害のある子供に対する教育課程の充実について

・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方、評価の頻度等

・幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続等

・通級による指導、特別支援学級、特別支援学校における教育課程の充実等



学習評価の課題 (①前回改訂時からなお残る課題)

1. 指導と評価の一体化は道半ば

- 学習途中で「学習改善等に生かす評価」（形成的評価）と、事後的な評価（「記録に残す評価」（総括的評価））が依然として十分に区別されず、学習評価の全てが「記録に残す評価」（≒評定）のために行われることが多い
 - 学年末に評定を記載する前提で指導要録の参考様式を示しているが、学期ごとに評定を細分化して確定し、その後の学習状況の如何にかかわらず、変更しない取扱が多い
- ✓ ある単元等でうまく学べなかった場合に、その後の学習の中で学習し直す動機付けが弱い
✓ 各学期末の通知表作成業務は負担が大きい

2. 「主態」評価の理解の難しさ

- 「主態」を適切に見取る課題を単元内で設定し、学習評価を授業改善に繋げている事例も見られる一方、学習指導要領改訂後のWGで追加的に示された2つの評価の視点について、以下のような課題も顕在化するなど、目指す資質・能力を適切に反映した評価になりにくいとの指摘
- ① 「粘り強さ」…ノート提出の頻度や課題の締切遵守等、形式的な「勤勉さ」の評価に留まっている例が散見
- ② 「自己調整」…「振り返り」による評価が行われる場合もあるが、教師の負担が大きい、教師の期待する表現を子供が過度に意識する傾向

<①②の課題が生じる背景>

「目標に準拠した評価」を採用し、結果として評定を左右するため、

- ✓ 評価理由の客観的な説明が容易な定量的材料を用いざるを得ないと指摘
- ✓ 評価の状況によっては、よさや成長を適切に見取り、肯定的に伝えることが難しく、学ぶ意欲をかえって下げてしまう場合があるとの指摘

3. 評価場面の精選は十分進まず

- 本時主義とも相まって、毎回の授業で複数の観点で「記録に残す評価」を行うなど、評価のために過度な労力が割かれ、学習や指導の改善に十分に注力できていない実態も見られる
- 教師が学習指導に注力すると共に、「学習改善等に生かす評価」（適時のアセスメントやフィードバック）に必要な余白を生み出す観点からも、単元を見通し、「記録に残す評価」場面の精選を一層進める必要

4. 多面的・多角的な評価は十分広がっていない

- 「思・判・表」については、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の製作等の多様な評価方法を取り入れていくことが必要（※）だが、その必要性は十分に共有されておらず、広がっているとは言い難い状況

<一般化を妨げる要因の例>

- ✓ 小学校…担当教科数が多く、評価計画を丁寧に作る余裕がないといった事情もあり、「知・技」および「思・判・表」の両方を業者から購入した単元テストによって評価する例が多い
- ✓ 中・高…入試等で成績が活用されるため、客観性を重視する観点から、「知・技」および「思・判・表」の両方をペーパーテストのみで評価する意識が根強い

（※）「思・判・表」は児童生徒が知識や技能を活用しながら課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているか評価するものであることから、前回改訂時の評価WGにおいてはパフォーマンス評価やポートフォリオの活用等の多様な評価方法の活用の必要性を指摘





学習評価の課題② (本部会の議論に伴う検討事項)

5. 学びに向かう力・人間性等の再整理との関係

※ 前回改訂時の中教審答申は学習評価の具体を示さず、学習指導要領告示後に学習評価WGにおいて「粘り強さ」「自己調整」という「主態」評価の二側面を提示した。この結果、「粘り強さ・自己調整」のみで、より大きな資質能力である「学びに向かう力・人間性等」が理解されるという事態も生じた。こうした反省も踏まえ、今般は指導要領改訂と学習評価の検討をセットで行っている。

- 本部会では「学びに向かう力・人間性等」を分かりやすく示すため、その構成要素を「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」、「学びの主体的な調整」、「他者との対話や協働」、「学びを方向付ける人間性」の4つに再整理していくことを議論してきた(4/25第6回)

▶ 4要素での再整理を生かしつつ、過度な負担を生じさせない形で豊かな学習評価につなげていく必要(前ページの2、3と関連)

6. 中核的な概念等との関係

- 教師一人一人が深い学びを実現する授業のイメージを持つことができるよう、中核的な概念等を用いた学習指導要領の内容の一層の構造化が議論されている(2/17第2回、6/16第9回)

▶ 「中核的な概念等」は身に付けるべき資質・能力を示すものとなるため、学習指導要領の記載ぶりの検討と並行して学習評価での取扱を整理する必要(中核的な概念等の具体は今後の検討とされており、詳しい議論は別途専門的な部会で行うことが適当)

7. 柔軟な教育課程との関係

- 本部会では、調整授業時数制度（仮称）により生み出された時間を、「裁量的な時間」として児童生徒の個性・特性・実態等に応じた学習支援に充てる方策を議論してきた(3/28第4回、6/16第9回)。この制度の活用により、各単元の課題を提出した時点では目標を達成していない、その後の学年内の多様な学びの機会を活用して目標を達成したり、達成に近づいたりするといったケースも一層生じやすくなることが考えられる。

▶ 学期末等の特定時点での学習成果のみならず、学年等の幅のある期間で評価していく方策を検討していく必要(1. と密接に関係)

以上1～7の課題を踏まえつつ、子供達の資質・能力の育成に向けた真に意味のある評価活動に集中して取り組めるようにすることで
①子供の学習や教師の指導の改善に繋げる ②学習評価の実施に係る過度な負担が生じないようにしつつ、余白を創出する
という基本的な認識の下、学習評価の具体的な在り方の検討を進めていくことが必要ではないか。

資質・能力の
育成に向けた
真に意味のある
評価活動

具体的論点・方向性①（「主態」評価の改善）

1. 個人内評価への変更

- 前回改訂時、「学びに向かう力・人間性等」のうち感性や思いやり等については目標に準拠した評価や評定になじまないとして「個人内評価」で扱うこととし、それらを除いた「主態」を目標に準拠した評価の対象としたが、理解が難しく目指す資質・能力を適切に反映した評価となりにくい、負担が重い等の指摘（P2の2. 参照）

一方、「学びに向かう力・人間性等」をカリキュラム全体で育んでいくことや、そのために主体的な学習の調整を促す課題を意図的に活動に位置づけていくことの重要性は一層高まっている

2. 思考・判断・表現の評価への付記

- 1. のように「学びに向かう力・人間性等」を教育課程全体を通じた個人内評価として行うことを想定した場合でも、その一部分は各教科等における「知・技」や「思・判・表」の評価の過程で特に見取れる場合もあると考えられる

特に、「思考力・判断力・表現力等」は「知識や技能を活用して課題を解決するために必要な力」であり、問題発見・解決や、考えの形成・表現、思いや考えを基にした意味や価値の創造といった過程で発揮されるものであり、本部会で議論してきた「学びに向かう力・人間性等」の4つの要素（※）と親和性が特に強い

（※）初発の思考や行動を起こす力・好奇心、学びの主体的な調整、他者との対話や協働、学びを方向付ける人間性

- ① 教育課程全体を通じた個人内評価を基本としつつも、思考・判断・表現の過程で、「学びに向かう力・人間性等」の各要素のうち、具体的に見取ることができる要素（初発の思考や行動・好奇心、対話や協働、学びの主体的な調整のプロセスを一体的に見取る）が特に表出した場合には、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記することの適否をどのように考えるか。また、知識・技能の習得の過程でこれらが表出した場合の扱いはどのように考えるか。

- ② ①のように考える場合、「思・判・表」の評価で、ペーパーテストに偏重した現在の評価が改善され、論述・レポート・作品製作等の「学びの主体的な調整」が求められる評価課題の重視や、それらを核とした授業改善に繋がる可能性をどのように考えるか

- ③ 1. 2. の方向性が、不登校児童生徒に対して特に「主態」の評価を付けづらく、結果として評定もつけられないという実態の改善に寄与する可能性をどのように考えるか

※「個人内評価」とすることにより、「学びに向かう力・人間性等」を資質・能力として育成していくことの重要性が低くなったとの誤解が生じないよう留意が必要

資質・能力の

育成に向けた

真に意味のある

評価活動

具体的論点・方向性① 「主態」評価の改善

1. 個人内評価への変更

- 前回改訂時、「学びに向かう力・人間性等」のうち感性や思いやり等については目標に準拠した評価や評定になじまないとして「個人内評価」で扱うこととし、それらを除いた「主態」を目標に準拠した評価の対象としたが、理解が難しく目指す資質・能力を適切に反映した評価となりにくい、負担が重い等の指摘(P2の2. 参照)

一方、「学びに向かう力・人間性等」をカリキュラム全体で育んでいくことや、そのために主体的な学習の調整を促す課題を意図的に活動に位置づけていくことの重要性は一層高まっている

2. 思考・判断・表現の評価への付記

- 1. のように「学びに向かう力・人間性等」を教育課程全体を通じた個人内評価として行うことを想定した場合でも、その一部分は各教科等における「知・技」や「思・判・表」の評価の過程で特に見取れる場合もあると考えられる

特に、「思考力・判断力・表現力等」は「知識や技能を活用して課題を解決するために必要な力」であり、問題発見・解決や、考えの形成・表現、思いや考えを基にした意味や価値の創造といった過程で発揮されるものであり、本部会で議論してきた「学びに向かう力・人間性等」の4つの要素(※)と親和性が特に強い

(※)初発の思考や行動を起こす力・好奇心、学びの主体的な調整、他者との対話や協働、学びを方向付ける人間性

- ① 教育課程全体を通じた個人内評価を基本としつつも、思考・判断・表現の過程で、「学びに向かう力・人間性等」の各要素のうち、具体的に見取ることができる要素（初発の思考や行動・好奇心、対話や協働、学びの主体的な調整のプロセスを一体的に見取る）が特に表出した場合には、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記することの適否をどのように考えるか。また、知識・技能の習得の過程でこれらが表出した場合の扱いはどのように考えるか。

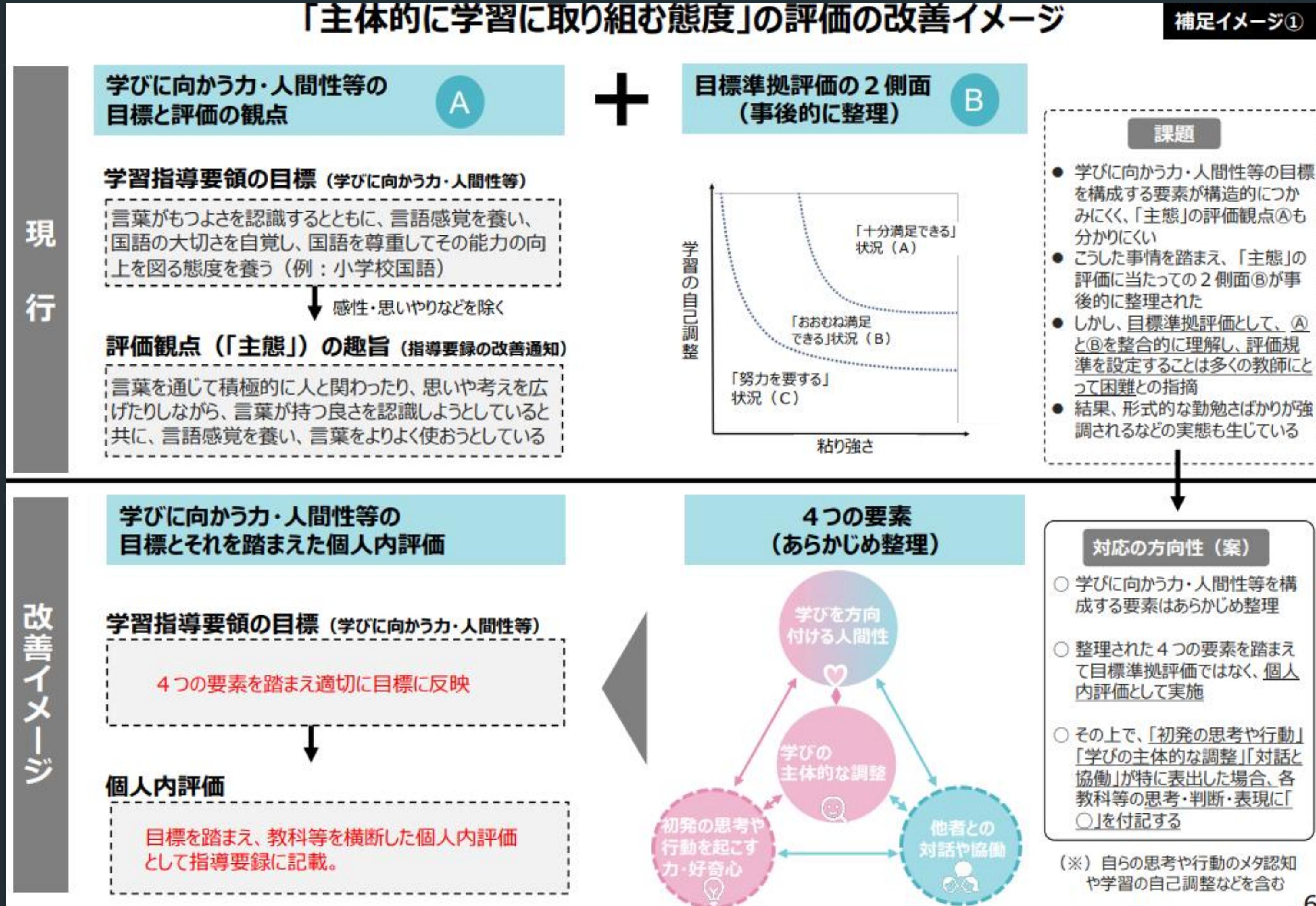
- ② ①のように考える場合、「思・判・表」の評価で、ペーパーテストに偏重した現在の評価が改善され、論述・レポート・作品製作等の「学びの主体的な調整」が求められる評価課題の重視や、それらを核とした授業改善に繋がる可能性をどのように考えるか

- ③ 1. 2. の方向性が、不登校児童生徒に対して特に「主態」の評価を付けづらく、結果として評定もつけられないという実態の改善に寄与する可能性をどのように考えるか

※「個人内評価」とすることにより、「学びに向かう力・人間性等」を資質・能力として育成していくことの重要性が低くなったとの誤解が生じないよう留意が必要

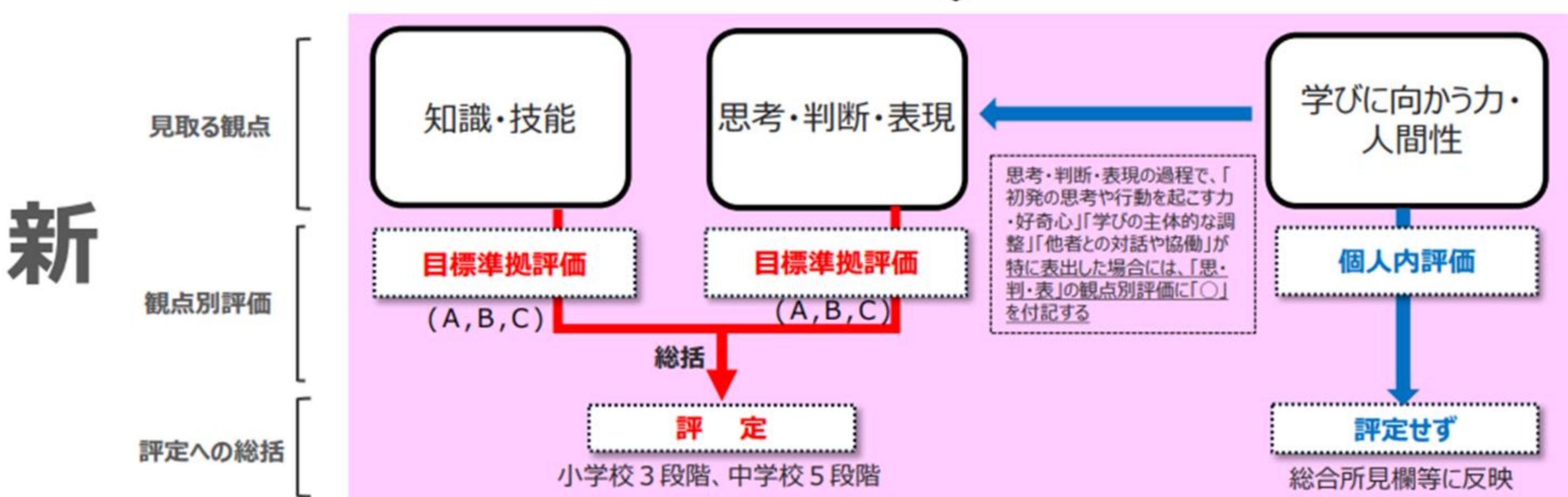
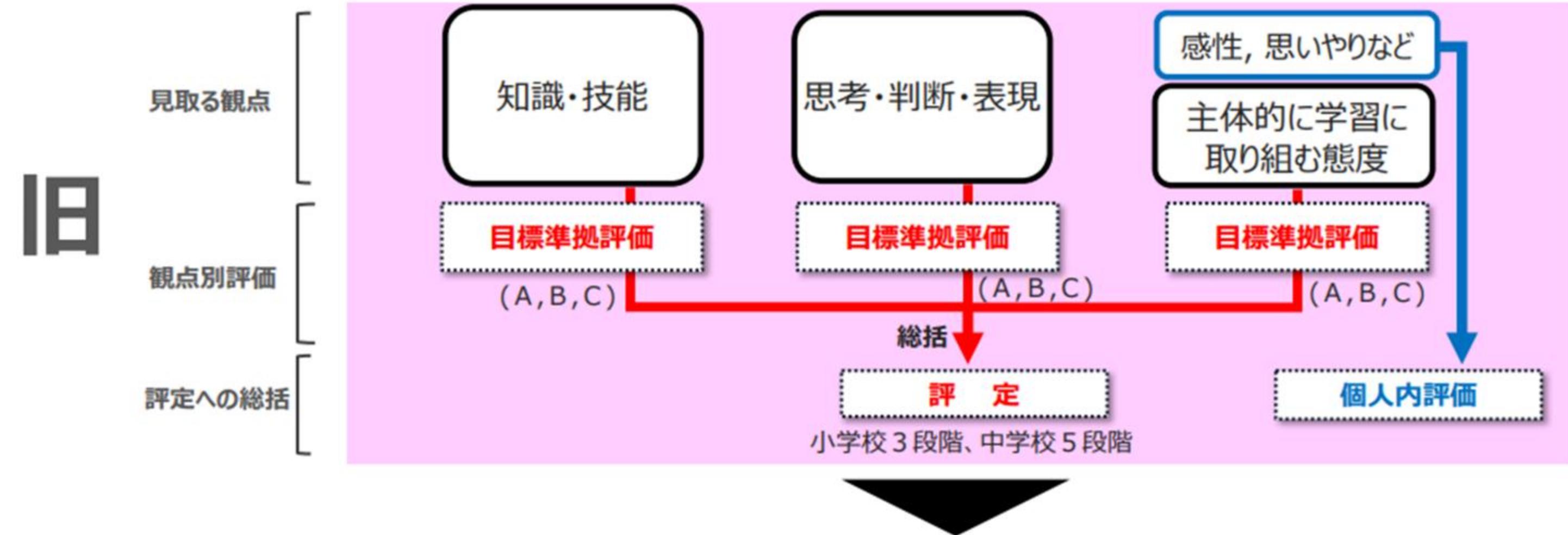
教科等に依存するのではなく、
教育課程全体で育む

評価はするが、
評定はしない



資料②

新たな観点別評価（イメージ）



資料③

学習評価の課題と論点（全体像）

論点②：評価の頻度やタイミング

- 負担が重い「記録に残す評価」の精選の方策
(デジタル技術活用の可能性を含む)

- 負担の重い評定の頻度を見直しつつ、「学習改善等に生かす評価」を充実させる方策
(デジタル技術活用の可能性を含む)

課題

現行の評価イメージ

課題

1学期						2学期	3学期	学年末	
	単元1	単元2	単元3	観点別	評定	評定	評定	評定	
知・技	小テスト 79	振り返り①	振り返り②	ノート①	ノート②	発言・行動 B	総括 B
思・判・表	74			B	B	総括 B	4	...	4
主態	A A A	A A B	A B B			A		...	5 B 4

課題

1学期						2学期	3学期	学年末	
	単元1	単元2	単元3	観点別	評定	評定	評定	評定	
知・技	小テスト 79	振り返り①	振り返り②	ノート①	ノート②	発言・行動 B	総括 B
思・判・表	74			B	B	総括 B	4	...	4
主態	A A A	A A B	A B B			A		...	5 B 4

- 過度な負担なく多面的評価を充実させる方策が必要
- 「初発の思考や行動」「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」が特に表出した場合、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記することの適否

- 目指す資質・能力を適切に反映した評価となりにくい、負担が重いとの指摘がある「学びに向かう力・人間性等」については教育課程全体として個人内評価とすることの適否

- 今後専門的な部会で、各教科等における中核的な概念等の具体的な粒度や示し方について検討していく中で、学習評価における取扱についても具体的に整理

論点①：「主態」評価の改善

論点③：中核的な概念等との関係

学習改善等につなげる評価（いわゆる「形成的評価」）

- ・学習過程の途中で、児童生徒一人一人のつまずきや伸びについて評価するもので、その後の児童生徒の学習の改善や教師による指導の改善に生かす目的で行う。小テスト、レポートやプロジェクトの途中経過、日々の記録などを活用する。

記録に残す評価（いわゆる「総括的評価」）

- ・学習活動が完了した後に実施される評価で、最終的な成果を評価するために用いる。テストや試験、最終レポート、プロジェクトの完成版などを活用し、学習者の全体的な理解度や達成度を判断する。

目標に準拠した評価（いわゆる「絶対評価」）

- ・児童生徒の学習状況を、学習指導要領に定める目標に照らしてその実現状況を評価するもの。

集団に準拠した評価（いわゆる「相対評価」）

- ・児童生徒の学習状況を、学級・学年など集団の中での相対的な位置づけによって評価するもの。

個人内評価

- ・児童生徒の学習状況を、個人のよい点や可能性、進歩の状況等に着目して評価するもの。

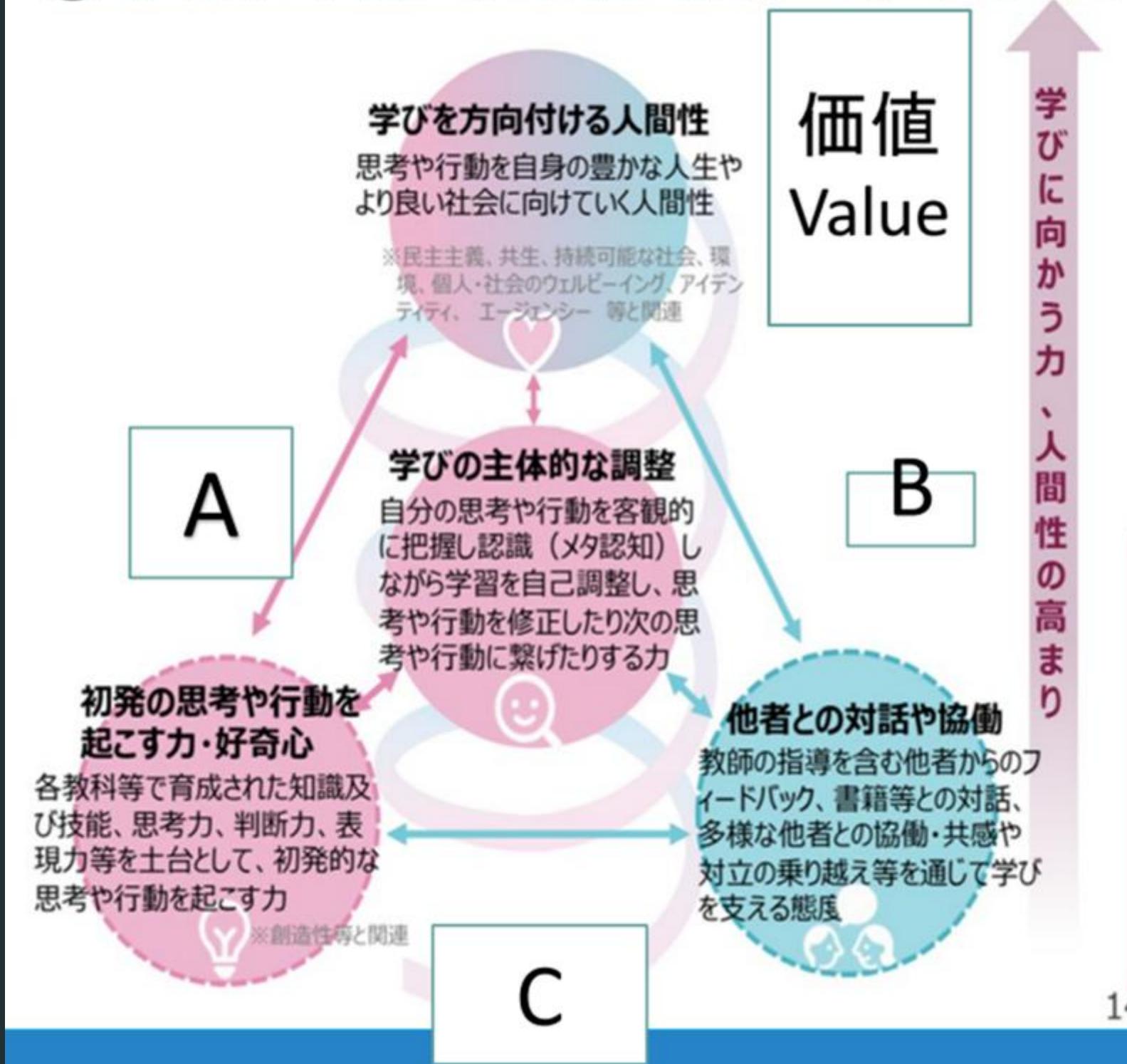
評価の「規準」（いわゆる「のりじゅん」）

- ・学習指導要領に示す資質・能力が身についた際の姿を、具体的な児童生徒の姿として設定したもの。文部科学省が評価の「キジュン」の語を使用する場合、こちらの漢字を用いる。（観点別評価で言えば、Bとなる水準を示すもの）

評価の「基準」（いわゆる「もとじゅん」）

- ・学校現場において、資質・能力の習得状況の程度を、評価の規準に照らしたより具体的な判断基準を示す場合、こちらの漢字が一般的に用いられる。（この課題で○○ならA、▲▲ならBなど、××ならCなど）

①学びに向かう力、人間性等の整理



社会情動的スキルとは(OECD, 2015)

A 目標の達成

- 忍耐力、自己調整、目標への情熱、信頼性

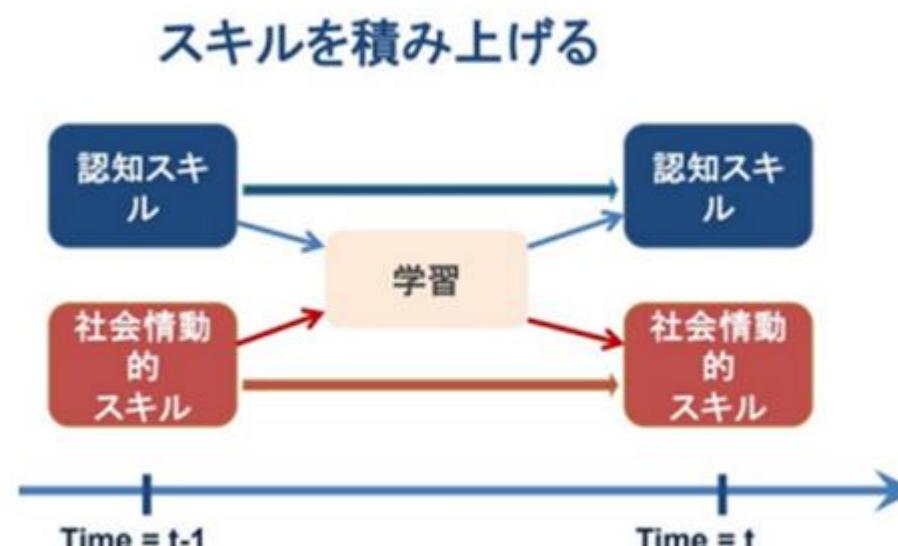
B 他者との協働

- 親密性、尊敬、親切・思いやり、援助、気遣い

C 感情のコントロール

穏やか、沈静、楽観主義、自信

螺旋的に
積みあ
がっていく





○「初発の思考や行動」「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」が特に表出した場合、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記することの適否

学びに向かう力、人間性等

〔自己理解・他者理解に関するここと〕

- 自ら積極的に探究すると共に自己と異なる意見や考えを理解しようしたり、友達のよさを認めたりしながら課題の解決や目標に向かって最後まで努力する。



〔主体性・協働性に関するここと〕

- 相手や状況に応じて、自分の考え方や思いをわかりやすく話したり、自分の考え方と比較しながら相手の話を聞いたりして、協働してよりよい課題解決につなげようとする。



〔将来展望・社会参画に関するここと〕

- これまでの学習で得た考え方や思いを振り返り、より確かな考え方をもつたり、自分にできることは何かを考えたりしながら実践し、これからの自己の生き方につなげる



初発の思考や行動を起こす力・好奇心

各教科等で育成された知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を土台として、初発的な思考や行動を起こす力

※創造性等と関連

学びの主体的な調整

自分の思考や行動を客観的に把握し認識（メタ認知）しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動に繋げたりする力

他者との対話や協働

教師の指導を含む他者からのフィードバック、書籍等との対話、多様な他者との協働・共感や対立の乗り越え等を通じて学びを支える態度

思考力、判断力、表現力等

〔課題の設定〕

- 体験を通して気付いたことや身の回りの人から得た情報を元にして課題を見出す。

〔情報の収集〕

- 食料廃棄「食品ロス」による問題とその対策に関する情報を資料、取材等の手段を適切に用いて収集する。

〔整理・分析〕

- 課題解決に向けて集めた情報を、課題に照らしながら、事実や経験を踏まえて比較、分類する。

〔まとめ・表現〕

- 相手や目的に応じて表現方法を選択し、考えたことや分かったことを交えながら、適切に表現する。